

学生の確保の見通し等を記載した書類（資料目次）

(資料 1)

「リクルート進学総研「マーケットレポート」 - 「18 歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率地元残留率の動向」

(資料 2)

「Press Release 「AIの将来への影響」 編」

(資料 3)

「九州女子大学令和5（2023）年度新設3学科 家政学部「生活デザイン学科（仮称）」人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」学生確保の見通し調査（設置構想についての高校生アンケート調査）報告書」

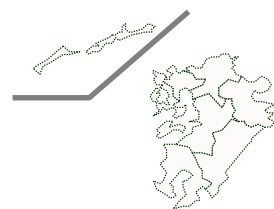
(資料 4)

「九州女子大学人間科学部「心理・文化学科（仮称）」人材需要の見通し調査（設置構想についての人材需要アンケート調査）報告書」

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向

九州沖縄版

- 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県 -



【将来予測 2020～2032年】

▶ 18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2020年141,187人→2032年131,637人（9,550人減少）
- ・ 減少率が高いのは、佐賀県（2020年比較15.7%減少）。
- ・ 減少数が多いのは、長崎県（2020年13,387人→2032年11,431人、1,956人減少）。

【経過推移 2011～2020年】

▶ 進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2011年52,145人→2020年51,973人（172人減少）と、0.3%減少。
- ・ 短期大学は、2011年8,048人→2020年6,127人（1,921人減少）と、23.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年24,991人→2020年23,856人（1,135人減少）と、4.5%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年38.4%→2020年41.3%（2.9ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年5.9%→2020年4.9%（1.0ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年18.4%→2020年18.9%（0.5ポイント上昇）

▶ 地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2011年46.6%→2020年46.5%（0.1ポイント低下）
- ・ 短期大学は、2011年73.0%→2020年76.4%（3.4ポイント上昇）

▶ 九州沖縄エリア概要(全体：県別) P14～P17

■分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口=3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数、義務教育学校卒業生数
 - ・ 中学校卒業生数=高校生+フリーター+就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。（年=年度）
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業生数とは、高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ⑥ 進学率(現役)とは、進学者数(大学・短期大学・専修学校専門課程(専門学校))÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- ⑧ 図表で利用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

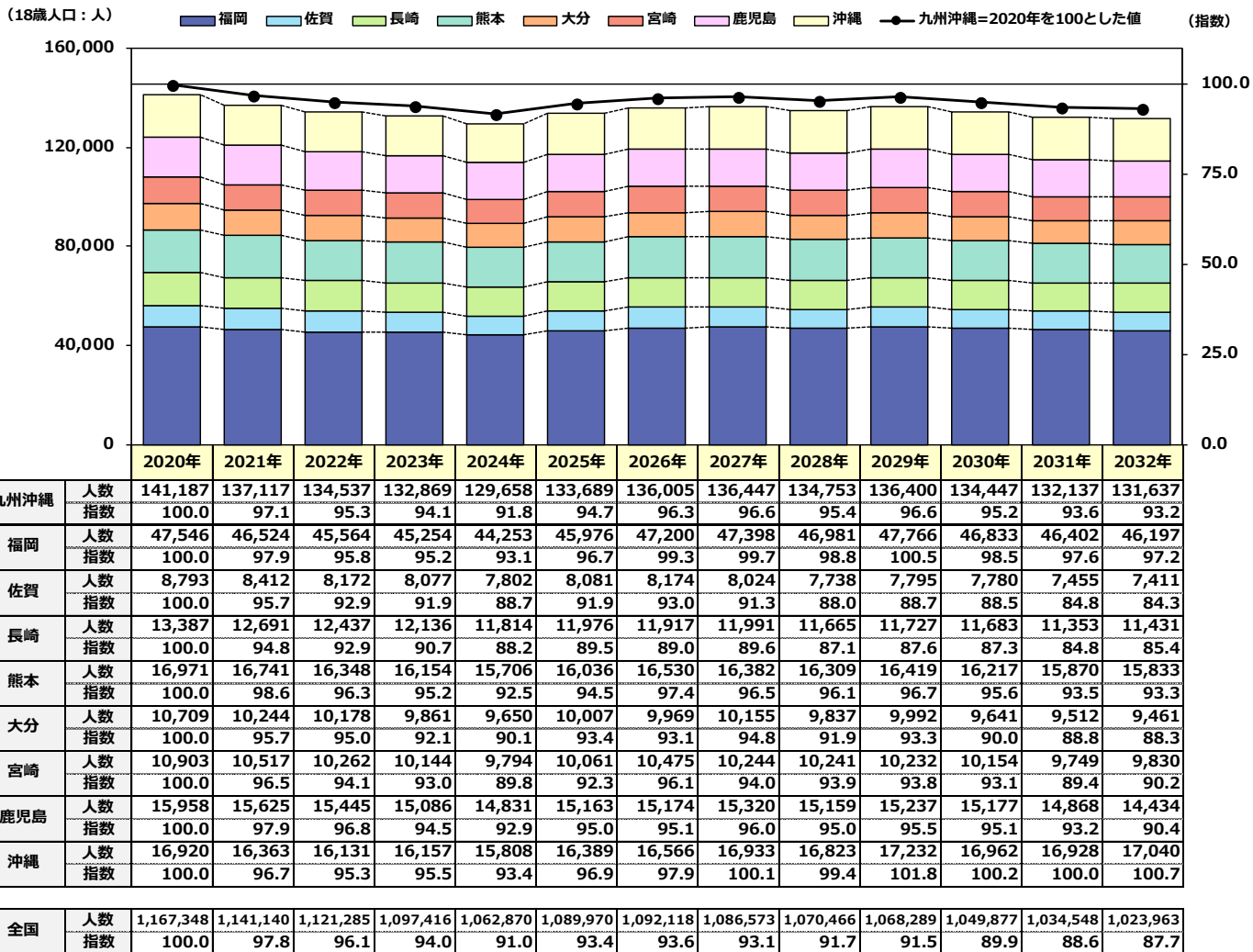
※専門学校=専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<http://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：九州沖縄：2020～2032年）

■ 2020年141,187人→2032年131,637人（9,550人減少）

- 九州沖縄エリアは12年間で9,550人・6.8%減少し、全国の減少率12.3%を5.5ポイント下回る。
- 2024年までに129,658人まで減少し、2027年にかけて6,789人増加した後、2032年までに再び4,810人減少。
- 減少率が高いのは、佐賀県（2020年比較15.7%減少）。
- 減少数が多いのは、長崎県（2020年13,387人→2032年11,431人、1,956人減少）。

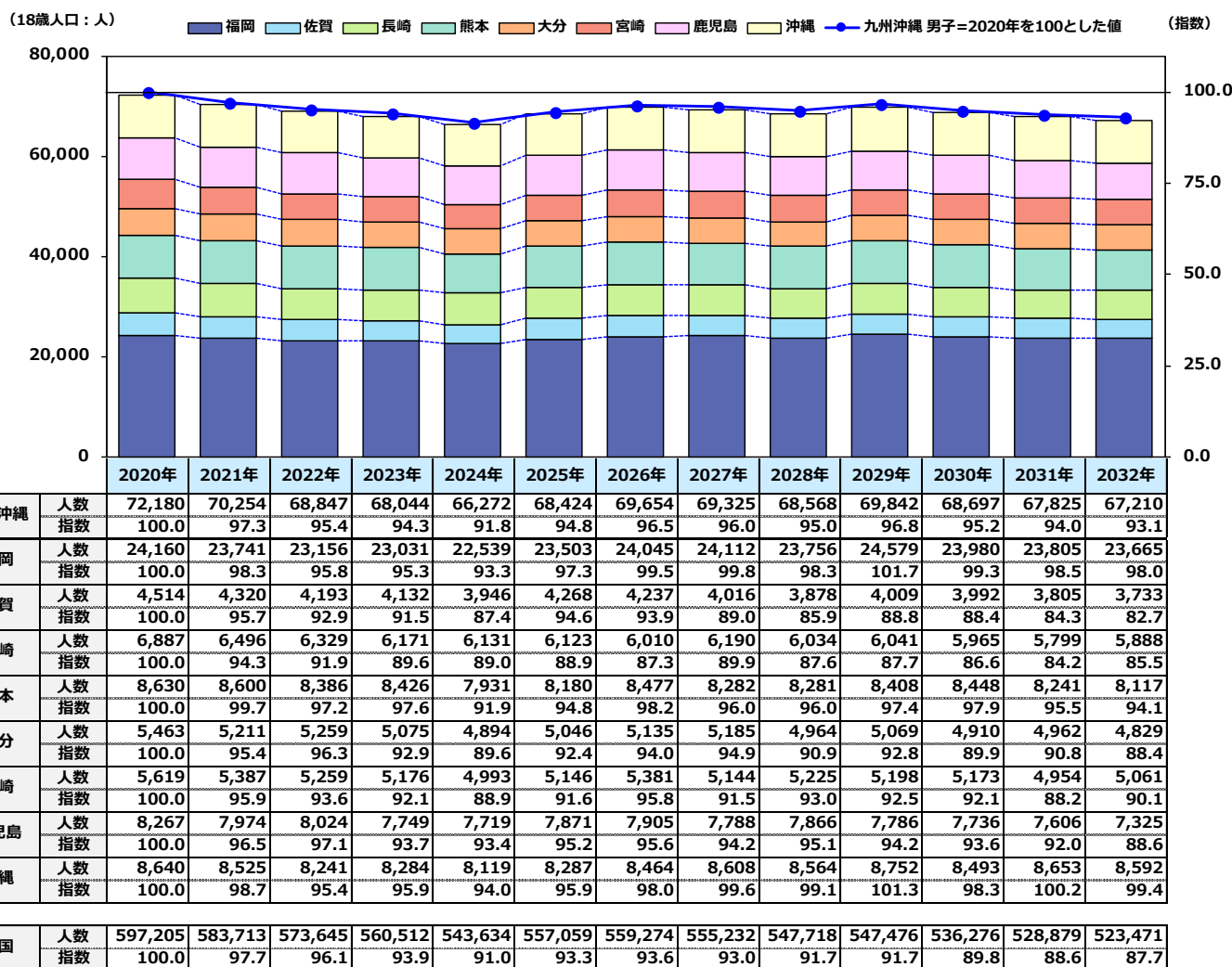


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（男子：九州沖縄：2020～2032年）

■ 2020年72,180人→2032年67,210人（4,970人減少）

- ・男子は12年間で4,970人・6.9%減少し、全国の減少率12.3%を5.4ポイント下回る。
- ・2024年に66,272人まで減少し、2026年にかげ3,382人増加した後、再び2029年微増し、その後は減少してる。
- ・減少率が高いのは、佐賀県（2020年比較17.3%減少）、次いで長崎県（2020年比較14.5%減少）。
- ・減少数が多いのは、長崎県（2020年6,887人→2032年5,888人、999人減少）。

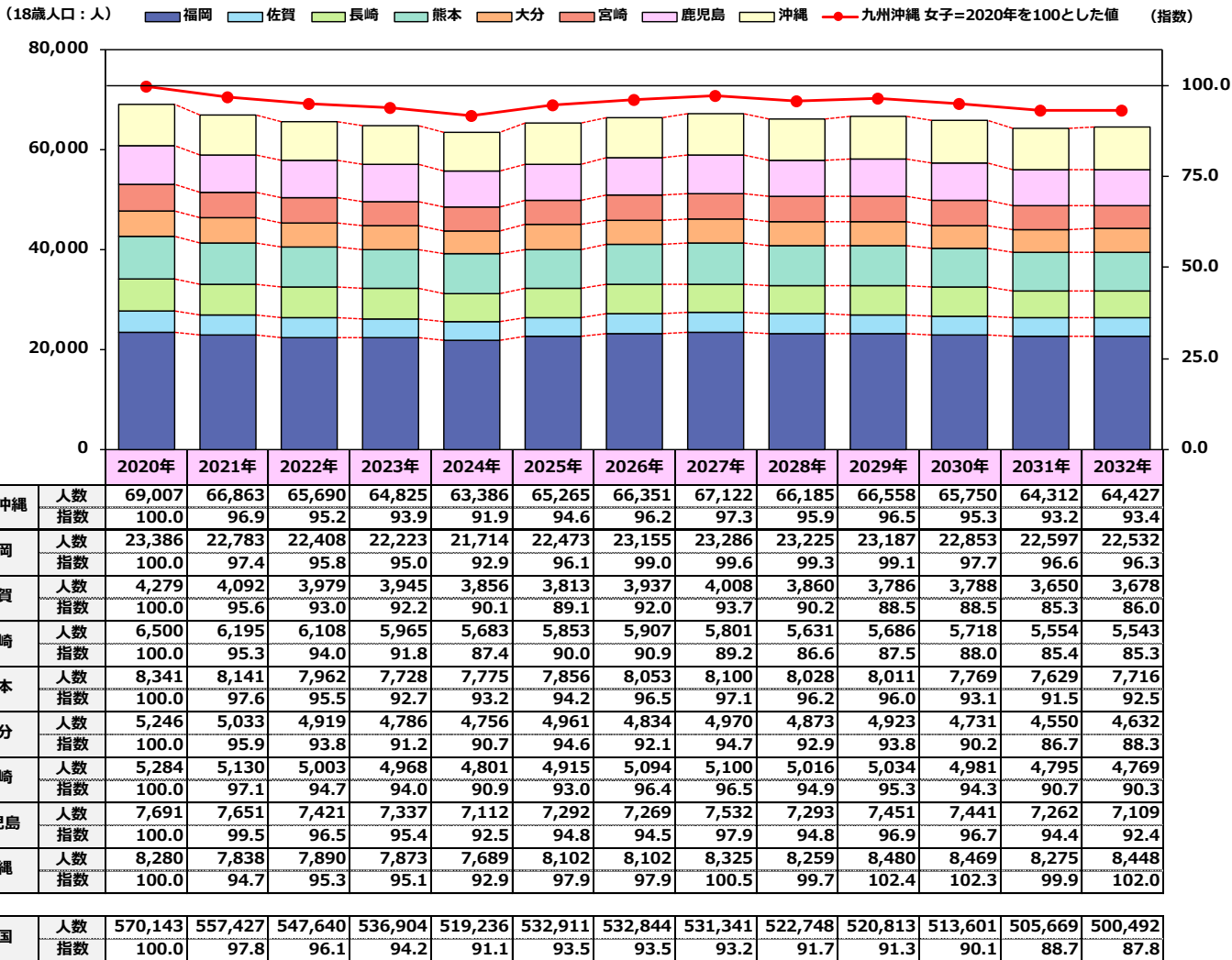


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：九州沖縄：2020～2032年）

■ 2020年69,007人→2032年64,427人（4,580人減少）

- ・女子は12年間で4,580人・6.6%減少し、全国の減少率12.2%を5.6ポイント下回る。
- ・2024年に63,386人まで減少するが、2027年に向け3,736人増加。その後は減少推移。
- ・減少率が高いのは、長崎県（2020年比較14.7%減少）。次いで、佐賀県（2020年比較14.0%減少）。
- ・減少数が多いのも、長崎県（2020年6,500人→2032年5,543人、957人減少）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：九州沖縄：2011～2020年）

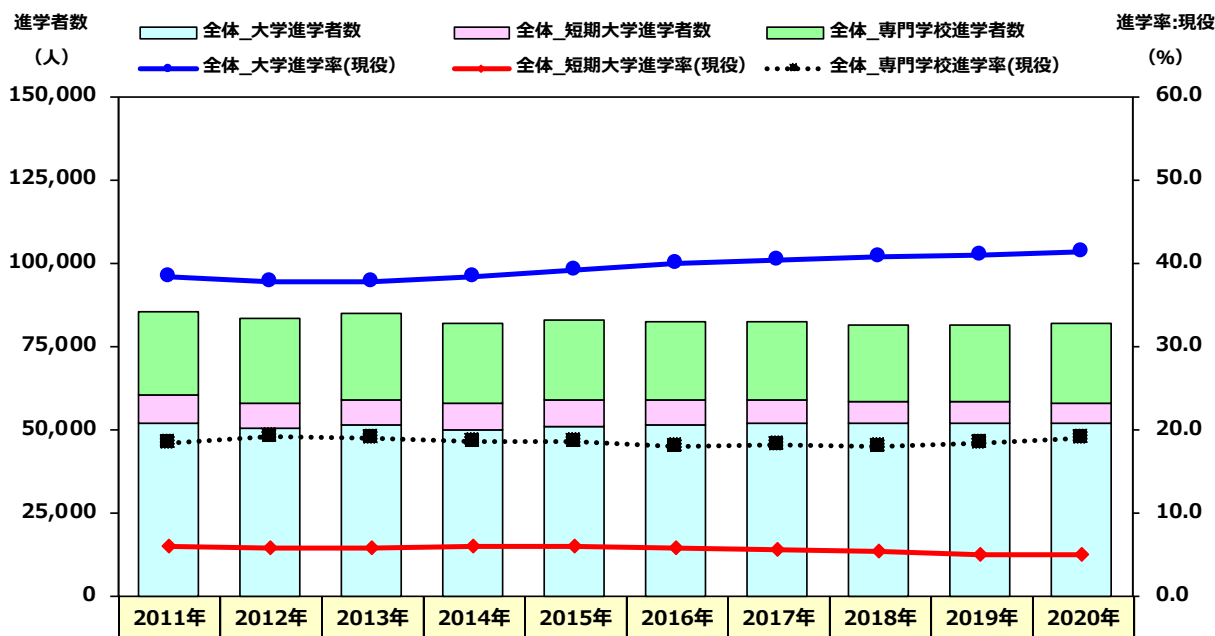
■ 10年で大学進学率が2.9ポイント上昇、大学進学者では172人減少、短期大学進学者で1,921人減少。

進学者数

- ・ 大学は、2011年52,145人→2020年51,973人（172人減少）と、0.3%減少。
- ・ 短期大学は、2011年8,048人→2020年6,127人（1,921人減少）と、23.9%減少。
- ・ 専門学校は、2011年24,991人→2020年23,856人（1,135人減少）と、4.5%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年38.4%→2020年41.3%（2.9ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年5.9%→2020年4.9%（1.0ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年18.4%→2020年18.9%（0.5ポイント上昇）



九州 沖縄	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
			135,785	133,308	135,923	130,284	130,536	129,144	129,078	127,067	127,129	125,955
進学者数	大学	52,145	50,384	51,275	49,940	51,063	51,482	51,976	51,729	51,933	51,973	
	短期大学	8,048	7,718	7,869	7,728	7,696	7,419	7,068	6,673	6,320	6,127	
	専門学校	24,991	25,524	25,691	24,157	24,248	23,246	23,487	22,899	23,340	23,856	
進学率 (現役)	大学	38.4	37.8	37.7	38.3	39.1	39.9	40.3	40.7	40.9	41.3	
	短期大学	5.9	5.8	5.8	5.9	5.9	5.7	5.5	5.3	5.0	4.9	
	専門学校	18.4	19.1	18.9	18.5	18.6	18.0	18.2	18.0	18.4	18.9	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
福岡	卒業生数		42,241	41,632	42,908	41,758	42,095	42,094	42,535	41,698	41,981	41,909
	進学者数	大学	19,382	18,791	19,141	19,082	19,668	19,900	20,256	19,669	20,042	19,988
		短期大学	2,707	2,605	2,613	2,636	2,611	2,492	2,309	2,159	2,077	2,070
		専門学校	6,524	6,805	6,802	6,538	6,405	6,165	6,905	7,049	7,114	7,407
	進学率 (現役)	大学	45.9	45.1	44.6	45.7	46.7	47.3	47.6	47.2	47.7	47.7
		短期大学	6.4	6.3	6.1	6.3	6.2	5.9	5.4	5.2	4.9	4.9
専門学校		15.4	16.3	15.9	15.7	15.2	14.6	16.2	16.9	16.9	17.7	
佐賀	卒業生数		8,732	8,423	8,519	8,281	8,239	8,254	8,106	8,051	8,079	7,976
	進学者数	大学	3,149	2,924	2,995	2,960	3,064	3,051	3,063	3,149	3,132	3,054
		短期大学	465	481	485	442	435	431	426	366	364	349
		専門学校	1,418	1,477	1,515	1,446	1,446	1,388	1,225	1,249	1,344	1,310
	進学率 (現役)	大学	36.1	34.7	35.2	35.7	37.2	37.0	37.8	39.1	38.8	38.3
		短期大学	5.3	5.7	5.7	5.3	5.3	5.2	5.3	4.5	4.5	4.4
専門学校		16.2	17.5	17.8	17.5	17.6	16.8	15.1	15.5	16.6	16.4	
長崎	卒業生数		14,577	14,040	14,081	13,182	12,924	12,915	12,977	12,740	12,289	12,161
	進学者数	大学	5,377	5,191	5,121	4,923	4,560	4,938	4,893	5,031	4,905	5,005
		短期大学	652	667	634	652	620	666	625	559	521	515
		専門学校	2,501	2,381	2,526	2,310	2,526	2,095	2,235	2,034	2,056	2,136
	進学率 (現役)	大学	36.9	37.0	36.4	37.3	35.3	38.2	37.7	39.5	39.9	41.2
		短期大学	4.5	4.8	4.5	4.9	4.8	5.2	4.8	4.4	4.2	4.2
専門学校		17.2	17.0	17.9	17.5	19.5	16.2	17.2	16.0	16.7	17.6	
熊本	卒業生数		16,635	16,293	16,640	15,968	15,911	15,719	15,622	15,405	15,532	14,931
	進学者数	大学	6,275	6,104	6,248	6,197	6,324	6,355	6,461	6,383	6,463	6,141
		短期大学	696	701	666	728	651	593	573	547	505	512
		専門学校	3,362	3,318	3,181	2,990	2,877	2,922	2,769	2,656	2,851	2,678
	進学率 (現役)	大学	37.7	37.5	37.5	38.8	39.7	40.4	41.4	41.4	41.6	41.1
		短期大学	4.2	4.3	4.0	4.6	4.1	3.8	3.7	3.6	3.3	3.4
専門学校		20.2	20.4	19.1	18.7	18.1	18.6	17.7	17.2	18.4	17.9	
大分	卒業生数		10,662	10,621	11,001	10,419	10,517	10,343	10,102	10,083	9,973	9,962
	進学者数	大学	3,982	3,822	3,896	3,626	3,781	3,730	3,663	3,805	3,719	3,859
		短期大学	912	824	901	882	913	859	835	773	721	749
		専門学校	2,128	2,150	2,308	2,196	2,211	2,118	2,066	1,957	1,864	1,921
	進学率 (現役)	大学	37.3	36.0	35.4	34.8	36.0	36.1	36.3	37.7	37.3	38.7
		短期大学	8.6	7.8	8.2	8.5	8.7	8.3	8.3	7.7	7.2	7.5
専門学校		20.0	20.2	21.0	21.1	21.0	20.5	20.5	19.4	18.7	19.3	
宮崎	卒業生数		10,916	10,807	11,357	10,653	10,752	10,657	10,364	10,028	10,160	10,080
	進学者数	大学	3,885	3,834	3,903	3,768	3,788	3,977	3,826	3,805	3,780	3,800
		短期大学	640	601	694	639	662	568	598	564	538	493
		専門学校	1,859	1,971	1,981	1,782	1,794	1,826	1,656	1,639	1,767	1,791
	進学率 (現役)	大学	35.6	35.5	34.4	35.4	35.2	37.3	36.9	37.9	37.2	37.7
		短期大学	5.9	5.6	6.1	6.0	6.2	5.3	5.8	5.6	5.3	4.9
専門学校		17.0	18.2	17.4	16.7	16.7	17.1	16.0	16.3	17.4	17.8	
鹿児島	卒業生数		17,007	16,321	16,447	15,374	15,214	14,928	14,765	14,489	14,607	14,427
	進学者数	大学	5,195	4,803	4,815	4,428	4,585	4,562	4,637	4,689	4,693	4,717
		短期大学	1,392	1,301	1,346	1,220	1,201	1,229	1,138	1,146	1,075	970
		専門学校	3,455	3,519	3,425	3,182	3,037	2,933	2,973	2,739	2,846	2,871
	進学率 (現役)	大学	30.5	29.4	29.3	28.8	30.1	30.6	31.4	32.4	32.1	32.7
		短期大学	8.2	8.0	8.2	7.9	7.9	8.2	7.7	7.9	7.4	6.7
専門学校		20.3	21.6	20.8	20.7	20.0	19.6	20.1	18.9	19.5	19.9	
沖縄	卒業生数		15,015	15,171	14,970	14,649	14,884	14,234	14,607	14,573	14,508	14,509
	進学者数	大学	4,900	4,915	5,156	4,956	5,293	4,969	5,177	5,198	5,199	5,409
		短期大学	584	538	530	529	603	581	564	559	519	469
		専門学校	3,744	3,903	3,953	3,713	3,952	3,799	3,658	3,576	3,498	3,742
	進学率 (現役)	大学	32.6	32.4	34.4	33.8	35.6	34.9	35.4	35.7	35.8	37.3
		短期大学	3.9	3.5	3.5	3.6	4.1	4.1	3.9	3.8	3.6	3.2
専門学校		24.9	25.7	26.4	25.3	26.6	26.7	25.0	24.5	24.1	25.8	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：九州沖縄：2011～2020年）

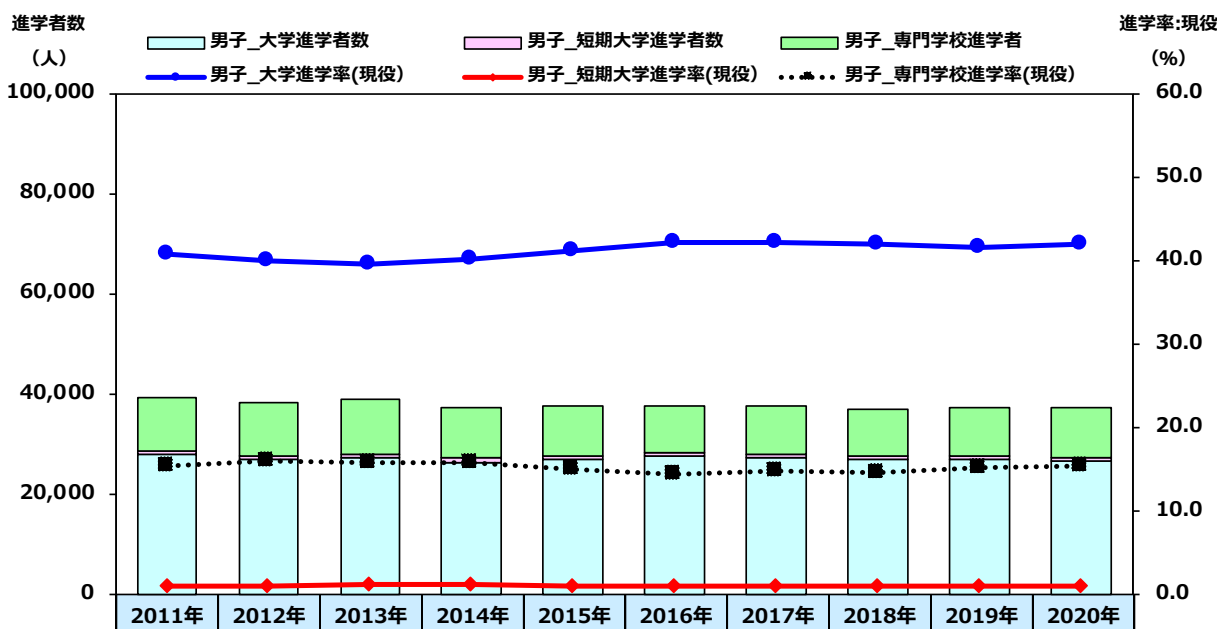
■ 男子では、大学進学率が1.2ポイント上昇し、進学者では1,358人減少

進学者数

- ・ 大学は、2011年28,008人→2020年26,650人（1,358人減少）と、4.8%減少。
- ・ 短期大学は、2011年698人→2020年640人（58人減少）と、8.3%減少。
- ・ 専門学校は、2011年10,591人→2020年9,816人（775人減少）と、7.3%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年40.7%→2020年41.9%（1.2ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年1.0%→2020年1.0%（変化なし）
- ・ 専門学校は、2011年15.4%→2020年15.4%（変化なし）



九州 沖縄	卒業生数		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
	進学者数	大学	28,008	26,851	27,155	26,324	27,002	27,384	27,356	26,963	26,887	26,650
		短期大学	698	662	725	725	670	679	641	594	616	640
専門学校		10,591	10,678	10,874	10,305	9,866	9,330	9,516	9,401	9,769	9,816	
進学率 (現役)	大学	40.7	40.0	39.6	40.2	41.1	42.1	42.2	42.0	41.6	41.9	
	短期大学	1.0	1.0	1.1	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	1.0	
	専門学校	15.4	15.9	15.8	15.7	15.0	14.3	14.7	14.6	15.1	15.4	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2011～2020年）

			2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
福岡	卒業生数		21,248	20,727	21,499	20,819	20,971	21,114	21,222	20,992	21,332	20,917
	進学者数	大学	10,329	10,018	10,139	9,979	10,368	10,478	10,609	10,142	10,257	10,095
		短期大学	254	222	271	283	283	260	268	226	262	269
		専門学校	2,830	2,904	2,874	2,822	2,609	2,535	2,794	2,974	3,078	3,072
	進学率 (現役)	大学	48.6	48.3	47.2	47.9	49.4	49.6	50.0	48.3	48.1	48.3
		短期大学	1.2	1.1	1.3	1.4	1.3	1.2	1.3	1.1	1.2	1.3
専門学校		13.3	14.0	13.4	13.6	12.4	12.0	13.2	14.2	14.4	14.7	
佐賀	卒業生数		4,581	4,374	4,362	4,247	4,166	4,255	4,153	4,181	4,271	4,111
	進学者数	大学	1,742	1,555	1,583	1,594	1,594	1,644	1,625	1,684	1,660	1,635
		短期大学	39	45	38	33	30	36	27	30	27	21
		専門学校	546	601	594	566	542	540	450	492	537	481
	進学率 (現役)	大学	38.0	35.6	36.3	37.5	38.3	38.6	39.1	40.3	38.9	39.8
		短期大学	0.9	1.0	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.7	0.6	0.5
専門学校		11.9	13.7	13.6	13.3	13.0	12.7	10.8	11.8	12.6	11.7	
長崎	卒業生数		7,413	7,093	7,101	6,639	6,480	6,543	6,602	6,454	6,255	6,229
	進学者数	大学	2,827	2,706	2,628	2,530	2,340	2,602	2,505	2,564	2,440	2,543
		短期大学	54	48	42	47	41	42	38	43	35	41
		専門学校	888	890	937	903	914	750	813	759	794	816
	進学率 (現役)	大学	38.1	38.2	37.0	38.1	36.1	39.8	37.9	39.7	39.0	40.8
		短期大学	0.7	0.7	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6	0.7
専門学校		12.0	12.5	13.2	13.6	14.1	11.5	12.3	11.8	12.7	13.1	
熊本	卒業生数		8,487	8,248	8,498	8,148	8,226	8,005	8,020	7,836	7,998	7,588
	進学者数	大学	3,272	3,113	3,203	3,185	3,307	3,332	3,378	3,279	3,343	3,103
		短期大学	97	91	100	96	83	82	81	71	69	62
		専門学校	1,449	1,401	1,368	1,308	1,170	1,192	1,154	1,030	1,160	1,046
	進学率 (現役)	大学	38.6	37.7	37.7	39.1	40.2	41.6	42.1	41.8	41.8	40.9
		短期大学	1.1	1.1	1.2	1.2	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9	0.8
専門学校		17.1	17.0	16.1	16.1	14.2	14.9	14.4	13.1	14.5	13.8	
大分	卒業生数		5,323	5,442	5,592	5,254	5,261	5,209	4,943	5,071	5,153	5,054
	進学者数	大学	2,144	2,127	2,115	1,959	2,069	2,063	1,990	2,031	2,031	2,104
		短期大学	103	108	128	138	93	105	103	87	81	99
		専門学校	864	920	988	925	948	861	836	833	862	805
	進学率 (現役)	大学	40.3	39.1	37.8	37.3	39.3	39.6	40.3	40.1	39.4	41.6
		短期大学	1.9	2.0	2.3	2.6	1.8	2.0	2.1	1.7	1.6	2.0
専門学校		16.2	16.9	17.7	17.6	18.0	16.5	16.9	16.4	16.7	15.9	
宮崎	卒業生数		5,634	5,574	5,822	5,390	5,501	5,385	5,353	5,076	5,164	5,214
	進学者数	大学	2,136	2,085	2,096	2,053	1,982	2,149	2,052	2,002	1,996	2,022
		短期大学	49	46	46	34	48	37	32	33	41	38
		専門学校	796	812	907	752	757	721	724	705	738	782
	進学率 (現役)	大学	37.9	37.4	36.0	38.1	36.0	39.9	38.3	39.4	38.7	38.8
		短期大学	0.9	0.8	0.8	0.6	0.9	0.7	0.6	0.7	0.8	0.7
専門学校		14.1	14.6	15.6	14.0	13.8	13.4	13.5	13.9	14.3	15.0	
鹿児島	卒業生数		8,562	8,132	8,280	7,616	7,562	7,426	7,383	7,204	7,321	7,333
	進学者数	大学	2,986	2,669	2,723	2,391	2,541	2,516	2,528	2,548	2,573	2,576
		短期大学	57	58	65	46	46	62	52	75	56	61
		専門学校	1,495	1,405	1,457	1,386	1,181	1,158	1,208	1,115	1,116	1,185
	進学率 (現役)	大学	34.9	32.8	32.9	31.4	33.6	33.9	34.2	35.4	35.1	35.1
		短期大学	0.7	0.7	0.8	0.6	0.6	0.8	0.7	1.0	0.8	0.8
専門学校		17.5	17.3	17.6	18.2	15.6	15.6	16.4	15.5	15.2	16.2	
沖縄	卒業生数		7,563	7,549	7,470	7,353	7,516	7,107	7,182	7,362	7,194	7,195
	進学者数	大学	2,572	2,578	2,668	2,633	2,801	2,600	2,669	2,713	2,587	2,572
		短期大学	45	44	35	48	46	55	40	29	45	49
		専門学校	1,723	1,745	1,749	1,643	1,745	1,573	1,537	1,493	1,484	1,629
	進学率 (現役)	大学	34.0	34.2	35.7	35.8	37.3	36.6	37.2	36.9	36.0	35.7
		短期大学	0.6	0.6	0.5	0.7	0.6	0.8	0.6	0.4	0.6	0.7
専門学校		22.8	23.1	23.4	22.3	23.2	22.1	21.4	20.3	20.6	22.6	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：九州沖縄：2011～2020年）

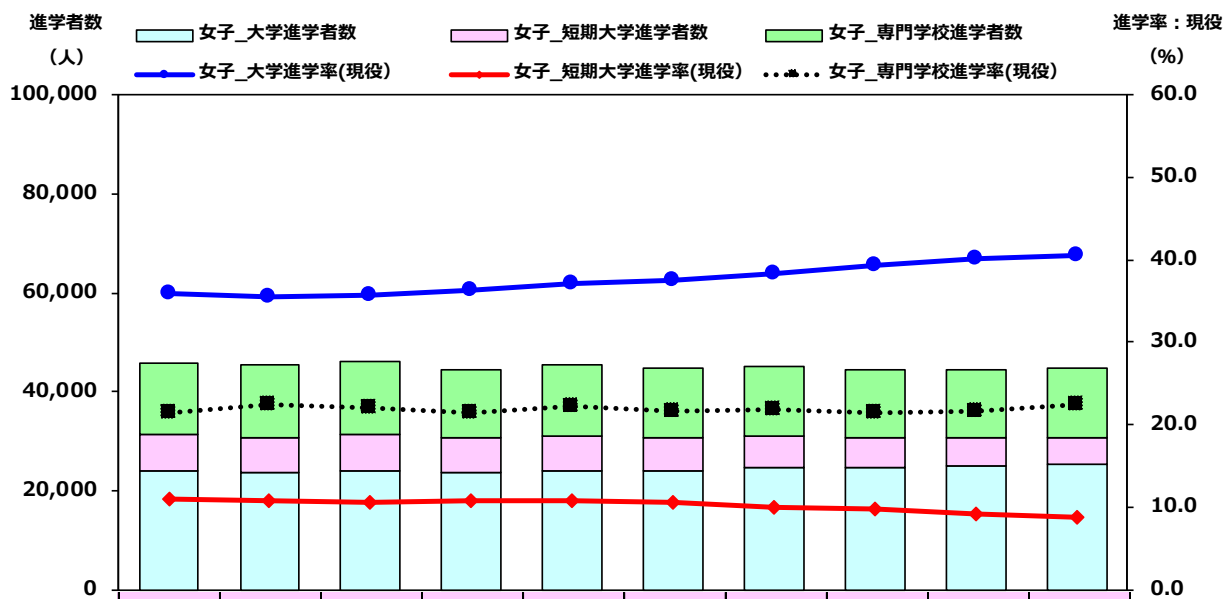
■ 女子では、大学進学率が4.6ポイント上昇し、進学者も1,186人増加する一方、短期大学・専門学校は進学者が減少（合計2,223人減少）

進学者数

- ・ 大学は、2011年24,137人→2020年25,323人（1,186人増加）と、4.9%増加。
- ・ 短期大学は、2011年7,350人→2020年5,487人（1,863人減少）と、25.3%減少。
- ・ 専門学校は、2011年14,400人→2020年14,040人（360人減少）と、2.5%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2011年36.0%→2020年40.6%（4.6ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2011年11.0%→2020年8.8%（2.2ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2011年21.5%→2020年22.5%（1.0ポイント上昇）



		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
九州 沖縄	卒業生数	66,974	66,169	67,299	64,818	64,853	64,100	64,220	62,891	62,441	62,314	
	進学者数	大学	24,137	23,533	24,120	23,616	24,061	24,098	24,620	24,766	25,046	25,323
		短期大学	7,350	7,056	7,144	7,003	7,026	6,740	6,427	6,079	5,704	5,487
		専門学校	14,400	14,846	14,817	13,852	14,382	13,916	13,971	13,498	13,571	14,040
	進学率 (現役)	大学	36.0	35.6	35.8	36.4	37.1	37.6	38.3	39.4	40.1	40.6
		短期大学	11.0	10.7	10.6	10.8	10.8	10.5	10.0	9.7	9.1	8.8
専門学校		21.5	22.4	22.0	21.4	22.2	21.7	21.8	21.5	21.7	22.5	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

・ 進学者数：高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・ 進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)

※専門学校=専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2011～2020年）

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	
福岡	卒業生数		20,993	20,905	21,409	20,939	21,124	20,980	21,313	20,706	20,649	20,992
	進学者数	大学	9,053	8,773	9,002	9,103	9,300	9,422	9,647	9,527	9,785	9,893
		短期大学	2,453	2,383	2,342	2,353	2,328	2,232	2,041	1,933	1,815	1,801
		専門学校	3,694	3,901	3,928	3,716	3,796	3,630	4,111	4,075	4,036	4,335
	進学率 （現役）	大学	43.1	42.0	42.0	43.5	44.0	44.9	45.3	46.0	47.4	47.1
		短期大学	11.7	11.4	10.9	11.2	11.0	10.6	9.6	9.3	8.8	8.6
専門学校		17.6	18.7	18.3	17.7	18.0	17.3	19.3	19.7	19.5	20.7	
佐賀	卒業生数		4,151	4,049	4,157	4,034	4,073	3,999	3,953	3,870	3,808	3,865
	進学者数	大学	1,407	1,369	1,412	1,366	1,470	1,407	1,438	1,465	1,472	1,419
		短期大学	426	436	447	409	405	395	399	336	337	328
		専門学校	872	876	921	880	904	848	775	757	807	829
	進学率 （現役）	大学	33.9	33.8	34.0	33.9	36.1	35.2	36.4	37.9	38.7	36.7
		短期大学	10.3	10.8	10.8	10.1	9.9	9.9	10.1	8.7	8.8	8.5
専門学校		21.0	21.6	22.2	21.8	22.2	21.2	19.6	19.6	21.2	21.4	
長崎	卒業生数		7,164	6,947	6,980	6,543	6,444	6,372	6,375	6,286	6,034	5,932
	進学者数	大学	2,550	2,485	2,493	2,393	2,220	2,336	2,388	2,467	2,465	2,462
		短期大学	598	619	592	605	579	624	587	516	486	474
		専門学校	1,613	1,491	1,589	1,407	1,612	1,345	1,422	1,275	1,262	1,320
	進学率 （現役）	大学	35.6	35.8	35.7	36.6	34.5	36.7	37.5	39.2	40.9	41.5
		短期大学	8.3	8.9	8.5	9.2	9.0	9.8	9.2	8.2	8.1	8.0
専門学校		22.5	21.5	22.8	21.5	25.0	21.1	22.3	20.3	20.9	22.3	
熊本	卒業生数		8,148	8,045	8,142	7,820	7,685	7,714	7,602	7,569	7,534	7,343
	進学者数	大学	3,003	2,991	3,045	3,012	3,017	3,023	3,083	3,104	3,120	3,038
		短期大学	599	610	566	632	568	511	492	476	436	450
		専門学校	1,913	1,917	1,813	1,682	1,707	1,730	1,615	1,626	1,691	1,632
	進学率 （現役）	大学	36.9	37.2	37.4	38.5	39.3	39.2	40.6	41.0	41.4	41.4
		短期大学	7.4	7.6	7.0	8.1	7.4	6.6	6.5	6.3	5.8	6.1
専門学校		23.5	23.8	22.3	21.5	22.2	22.4	21.2	21.5	22.4	22.2	
大分	卒業生数		5,339	5,179	5,409	5,165	5,256	5,134	5,159	5,012	4,820	4,908
	進学者数	大学	1,838	1,695	1,781	1,667	1,712	1,667	1,673	1,774	1,688	1,755
		短期大学	809	716	773	744	820	754	732	686	640	650
		専門学校	1,264	1,230	1,320	1,271	1,263	1,257	1,230	1,124	1,002	1,116
	進学率 （現役）	大学	34.4	32.7	32.9	32.3	32.6	32.5	32.4	35.4	35.0	35.8
		短期大学	15.2	13.8	14.3	14.4	15.6	14.7	14.2	13.7	13.3	13.2
専門学校		23.7	23.7	24.4	24.6	24.0	24.5	23.8	22.4	20.8	22.7	
宮崎	卒業生数		5,282	5,233	5,535	5,263	5,251	5,272	5,011	4,952	4,996	4,866
	進学者数	大学	1,749	1,749	1,807	1,715	1,806	1,828	1,774	1,803	1,784	1,778
		短期大学	591	555	648	605	614	531	566	531	497	455
		専門学校	1,063	1,159	1,074	1,030	1,037	1,105	932	934	1,029	1,009
	進学率 （現役）	大学	33.1	33.4	32.6	32.6	34.4	34.7	35.4	36.4	35.7	36.5
		短期大学	11.2	10.6	11.7	11.5	11.7	10.1	11.3	10.7	9.9	9.4
専門学校		20.1	22.1	19.4	19.6	19.7	21.0	18.6	18.9	20.6	20.7	
鹿児島	卒業生数		8,445	8,189	8,167	7,758	7,652	7,502	7,382	7,285	7,286	7,094
	進学者数	大学	2,209	2,134	2,092	2,037	2,044	2,046	2,109	2,141	2,120	2,141
		短期大学	1,335	1,243	1,281	1,174	1,155	1,167	1,086	1,071	1,019	909
		専門学校	1,960	2,114	1,968	1,796	1,856	1,775	1,765	1,624	1,730	1,686
	進学率 （現役）	大学	26.2	26.1	25.6	26.3	26.7	27.3	28.6	29.4	29.1	30.2
		短期大学	15.8	15.2	15.7	15.1	15.1	15.6	14.7	14.7	14.0	12.8
専門学校		23.2	25.8	24.1	23.2	24.3	23.7	23.9	22.3	23.7	23.8	
沖縄	卒業生数		7,452	7,622	7,500	7,296	7,368	7,127	7,425	7,211	7,314	7,314
	進学者数	大学	2,328	2,337	2,488	2,323	2,492	2,369	2,508	2,485	2,612	2,837
		短期大学	539	494	495	481	557	526	524	530	474	420
		専門学校	2,021	2,158	2,204	2,070	2,207	2,226	2,121	2,083	2,014	2,113
	進学率 （現役）	大学	31.2	30.7	33.2	31.8	33.8	33.2	33.8	34.5	35.7	38.8
		短期大学	7.2	6.5	6.6	6.6	7.6	7.4	7.1	7.3	6.5	5.7
専門学校		27.1	28.3	29.4	28.4	30.0	31.2	28.6	28.9	27.5	28.9	

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校※に進学した数

・進学率(現役)：進学者数(大学・短期大学・専門学校※)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制＋中等教育学校後期課程)

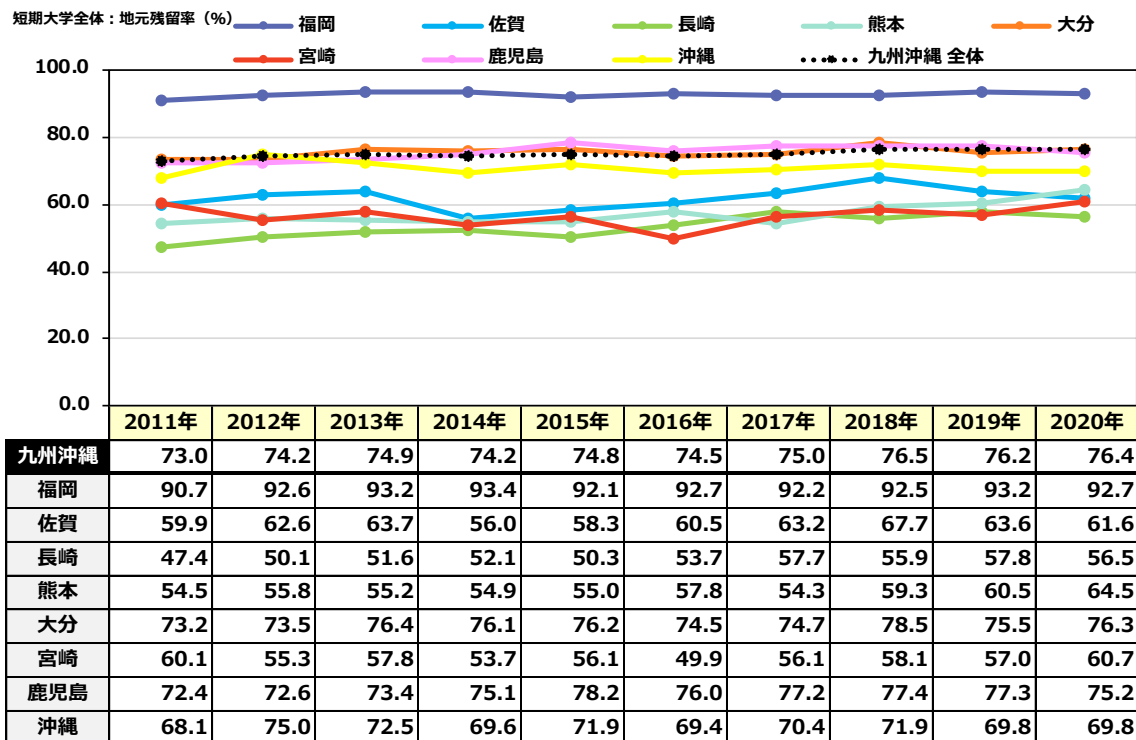
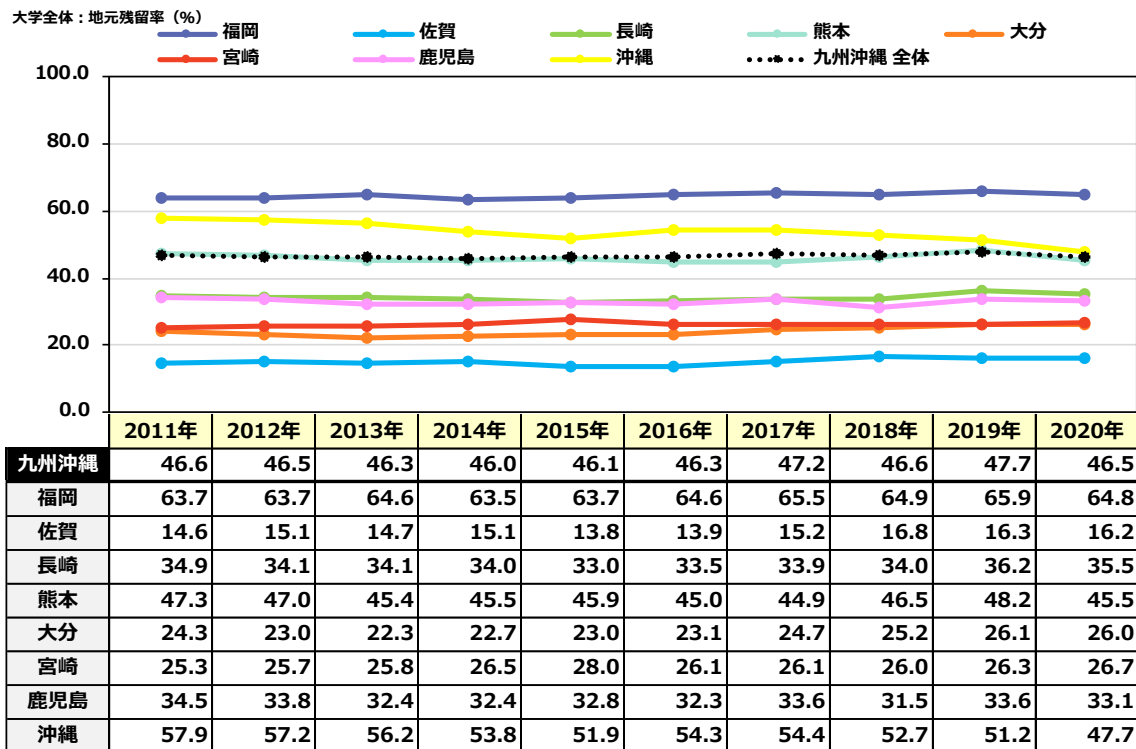
※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（全体：九州沖縄：2011～2020年）

■ 大学は、2011年46.6%→2020年46.5%（0.1ポイント低下）

短期大学は、2011年73.0%→2020年76.4%（3.4ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、大分県（2011年24.3%→2020年26.0%、1.7ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、熊本県（2011年54.5%→2020年64.5%、10.0ポイント上昇）。



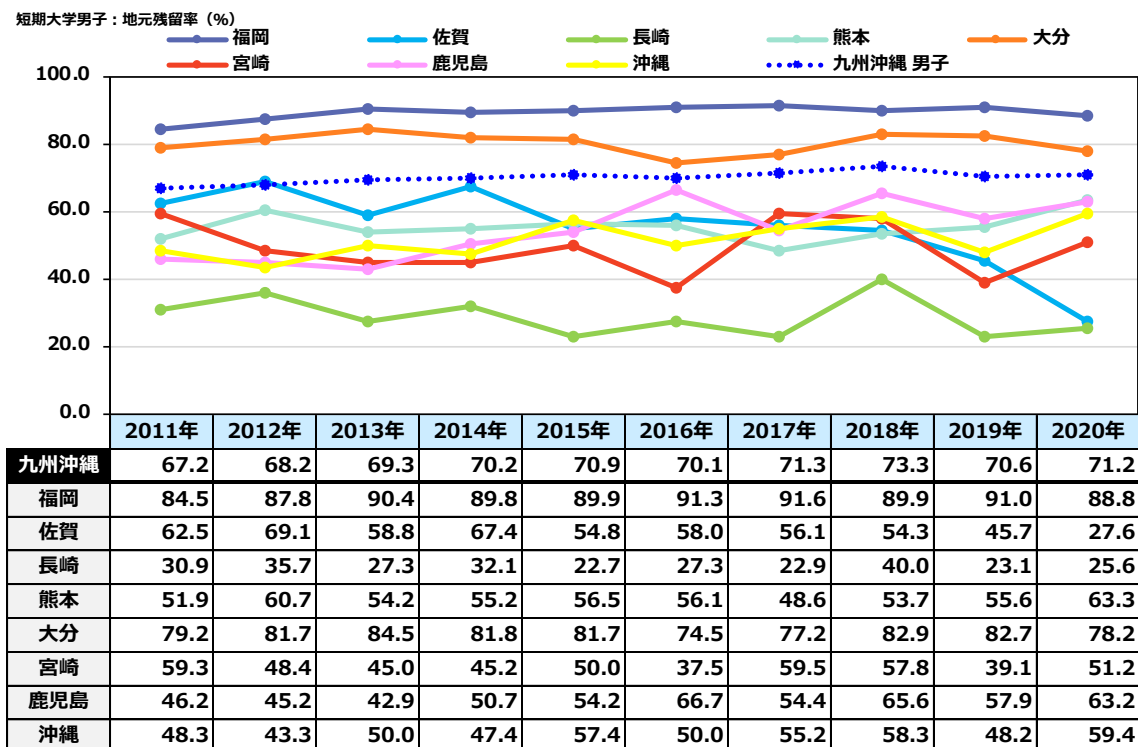
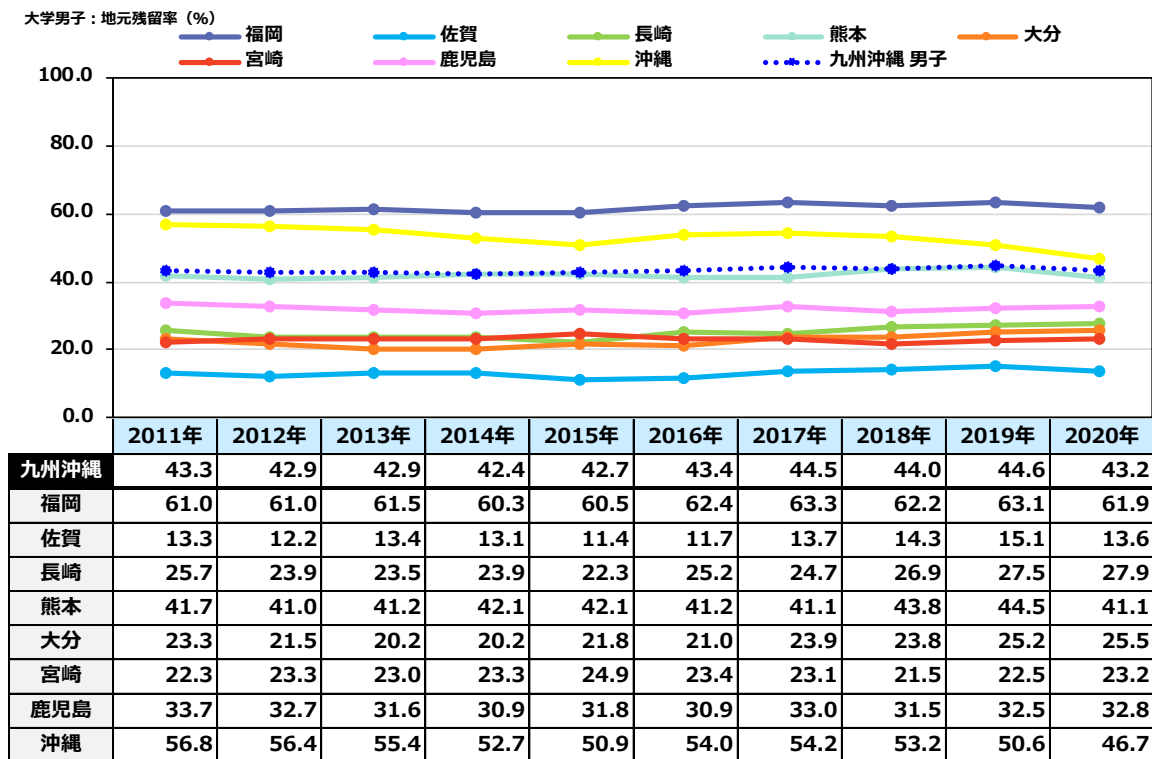
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（男子：九州沖縄：2011～2020年）

■ 大学は、2011年43.3%→2020年43.2%（0.1ポイント低下）
 短期大学は、2011年67.2%→2020年71.2%（4.0ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、長崎県（2011年25.7%→2020年27.9%、2.2ポイント上昇）、大分県（2011年23.3%→2020年25.5%、2.2ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、鹿児島県（2011年46.2%→2020年63.2%、17.0ポイント上昇）。



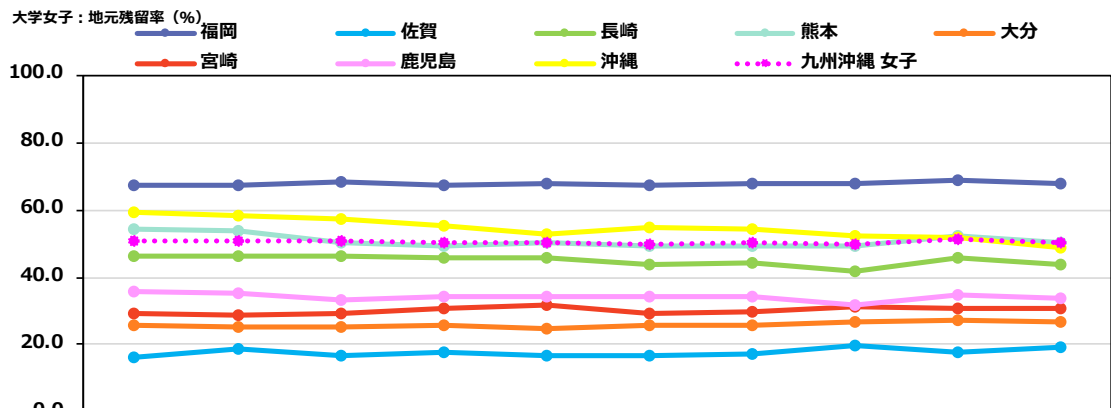
※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

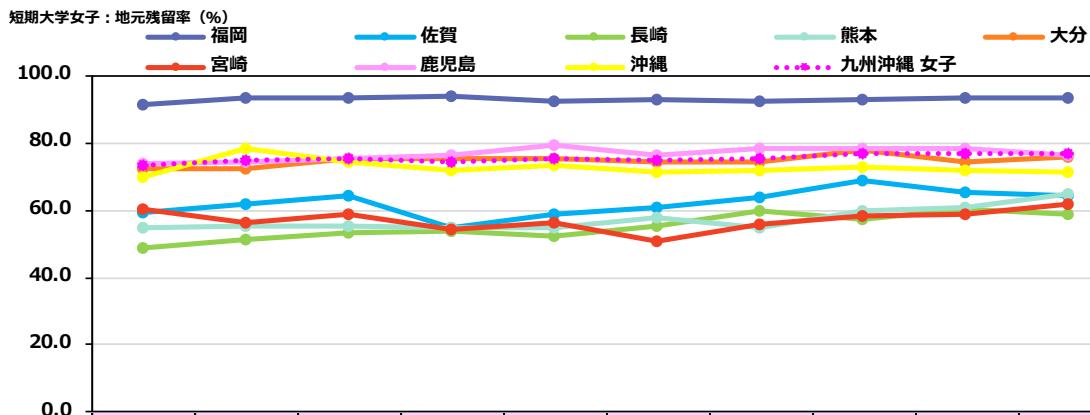
地元残留率の推移（女子：九州沖縄：2011～2020年）

■ 大学は、2011年50.8%→2020年50.2%（0.6ポイント低下）
 短期大学は、2011年73.6%→2020年77.0%（3.4ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、佐賀県（2011年16.4%→2020年19.4%、3.0ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、長崎県（2011年48.8%→2020年59.0%、10.2ポイント上昇）。



	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
九州沖縄	50.8	50.9	50.6	50.4	50.2	50.0	50.5	49.8	51.3	50.2
福岡	67.1	67.2	68.4	67.4	67.7	67.2	68.0	68.1	69.1	68.1
佐賀	16.4	18.9	16.5	17.6	16.8	16.8	17.1	19.8	17.8	19.4
長崎	46.1	46.2	46.4	45.8	45.6	43.6	44.5	41.8	45.6	44.0
熊本	54.1	54.0	50.2	49.3	50.4	49.5	49.4	49.5	52.4	50.3
大分	25.5	25.0	25.0	25.8	24.5	25.9	25.8	26.9	27.1	26.7
宮崎	29.1	28.7	29.5	30.6	31.7	29.5	29.7	31.4	30.6	31.0
鹿児島	35.7	35.4	33.5	34.4	34.4	34.2	34.4	31.6	34.9	33.6
沖縄	59.1	58.2	57.2	55.1	53.0	54.6	54.5	52.2	51.9	48.7

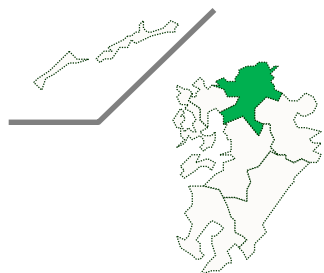


	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
九州沖縄	73.6	74.8	75.5	74.6	75.2	75.0	75.4	76.8	76.8	77.0
福岡	91.4	93.2	93.5	93.8	92.3	92.9	92.3	92.9	93.5	93.3
佐賀	59.5	61.9	64.2	54.8	58.6	60.7	63.8	69.0	65.3	64.4
長崎	48.8	51.3	53.3	53.8	52.2	55.4	59.6	57.2	60.5	59.0
熊本	54.8	55.2	55.3	54.9	54.8	58.0	55.0	59.8	61.0	64.6
大分	72.5	72.5	75.2	75.3	75.6	74.5	74.3	78.1	74.6	76.0
宮崎	60.2	56.1	59.0	54.2	56.5	50.8	55.9	58.1	58.6	61.6
鹿児島	73.8	74.3	75.6	76.5	79.5	76.5	78.6	78.3	78.6	76.2
沖縄	70.1	78.5	74.6	71.9	73.2	71.5	71.9	72.7	72.1	71.3

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

福岡県



学校数

大学 : 34 (国立 3・公立 4・私立 27)
 短期大学 : 18 (私立 18)
 専門学校 : 138 (国立 1・私立 137)

卒業者数

2011年42,241人→2020年41,909人 (332人減少)

進学者数

大学 : 2011年19,382人→2020年19,988人 (606人増加)
 短期大学 : 2011年 2,707人→2020年 2,070人 (637人減少)
 専門学校 : 2011年 6,524人→2020年 7,407人 (883人増加)

進学率(現役)

大学 : 2011年45.9%→2020年47.7% (1.8ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 6.4%→2020年 4.9% (1.5ポイント低下)
 専門学校 : 2011年15.4%→2020年17.7% (2.3ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年63.7%→2020年64.8% (1.1ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年90.7%→2020年92.7% (2.0ポイント上昇)

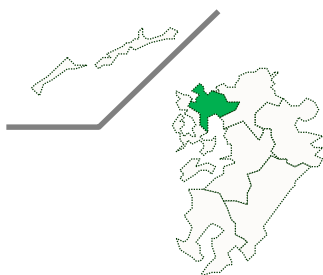
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位佐賀 (1,409人)、2位熊本 (1,333人)、3位長崎 (1,208人)
 短期大学 : 1位大分 (150人)、2位長崎 (144人)、3位鹿児島 (118人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位東京 (1,348人)、2位山口 (704人)、3位熊本 (695人)
 短期大学 : 1位大分 (43人)、2位佐賀 (31人)、3位東京 (18人)

佐賀県



学校数

大学 : 2 (国立 1・私立 1)
 短期大学 : 3 (私立 3)
 専門学校 : 23 (公立 1・私立 22)

卒業者数

2011年8,732人→2020年7,976人 (756人減少)

進学者数

大学 : 2011年3,149人→2020年3,054人 (95人減少)
 短期大学 : 2011年 465人→2020年 349人 (116人減少)
 専門学校 : 2011年1,418人→2020年1,310人 (108人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年36.1%→2020年38.3% (2.2ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.3%→2020年 4.4% (0.9ポイント低下)
 専門学校 : 2011年16.2%→2020年16.4% (0.2ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年14.6%→2020年16.2% (1.6ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年59.9%→2020年61.6% (1.7ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (676人)、2位長崎 (193人)、3位熊本 (110人)
 短期大学 : 1位福岡 (31人)、2位長崎 (19人)、3位熊本 (12人)

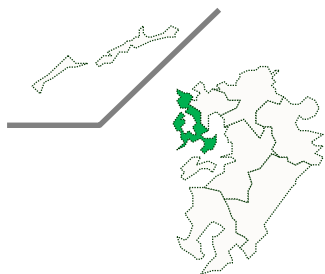
入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (1,409人)、2位東京 (299人)、3位長崎 (197人)
 短期大学 : 1位福岡 (112人)、2位大分 (12人)、3位東京 (6人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

長崎県



学校数

大学 : 8 (国立 1・公立 1・私立 6)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 29 (公立 1・私立 28)

卒業生数

2011年14,577人→2020年12,161人 (2,416人減少)

進学者数

大学 : 2011年5,377人→2020年5,005人 (372人減少)
 短期大学 : 2011年 652人→2020年 515人 (137人減少)
 専門学校 : 2011年2,501人→2020年2,136人 (365人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年36.9%→2020年41.2% (4.3ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 4.5%→2020年 4.2% (0.3ポイント低下)
 専門学校 : 2011年17.2%→2020年17.6% (0.4ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年34.9%→2020年35.5% (0.6ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年47.4%→2020年56.5% (9.1ポイント上昇)

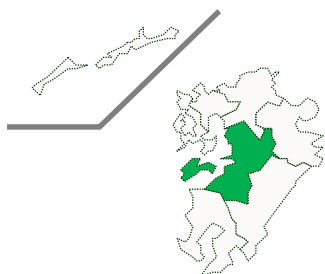
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (501人)、2位佐賀 (197人)、3位熊本 (176人)
 短期大学 : 1位鹿児島 (4人)、2位沖縄・佐賀 (3人)

入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,208人)、2位東京 (404人)、3位熊本 (244人)
 短期大学 : 1位福岡 (144人)、2位大分 (23人)、3位佐賀 (24人)

熊本県



学校数

大学 : 9 (国立 1・公立 1・私立 7)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 45 (公立 4・私立 41)

卒業生数

2011年16,635人→2020年14,931人 (1,704人減少)

進学者数

大学 : 2011年6,275人→2020年6,141人 (134人減少)
 短期大学 : 2011年 696人→2020年 512人 (184人減少)
 専門学校 : 2011年3,362人→2020年2,678人 (684人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年37.7%→2020年41.1% (3.4ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 4.2%→2020年 3.4% (0.8ポイント低下)
 専門学校 : 2011年20.2%→2020年17.9% (2.3ポイント低下)

残留率

大学 : 2011年47.3%→2020年45.5% (1.8ポイント低下)
 短期大学 : 2011年54.5%→2020年64.5% (10.0ポイント増加)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (695人)、2位鹿児島 (340人)、3位宮崎 (277人)
 短期大学 : 1位福岡・鹿児島 (6人)、2位北海道・長崎・宮崎 (2人)

入学者流出先

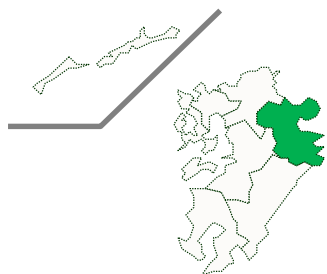
大学 : 1位福岡 (1,333人)、2位東京 (512人)、3位鹿児島 (228人)
 短期大学 : 1位福岡 (116人)、2位大分 (28人)、3位佐賀 (12人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業生数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業生数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

九州沖縄工リア概要（全体：県別）

大分県



学校数

大学 : 5 (国立 1・公立 1・私立 3)
 短期大学 : 5 (公立 1・私立 4)
 専門学校 : 41 (公立 1・私立 40)

卒業者数

2011年10,662人→2020年9,962人 (700人減少)

進学者数

大学 : 2011年3,982人→2020年3,859人 (123人減少)
 短期大学 : 2011年 912人→2020年 749人 (163人減少)
 専門学校 : 2011年2,128人→2020年1,921人 (207人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年37.3%→2020年38.7% (1.4ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 8.6%→2020年 7.5% (1.1ポイント低下)
 専門学校 : 2011年20.0%→2020年19.3% (0.7ポイント低下)

残留率

大学 : 2011年24.3%→2020年26.0% (1.7ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年73.2%→2020年76.3% (3.1ポイント上昇)

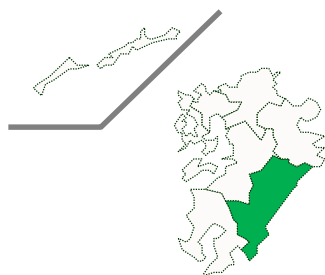
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (314人)、2位宮崎 (205人)、3位熊本・長崎 (153人)
 短期大学 : 1位福岡 (43人)、2位宮崎 (35人)、3位熊本 (28人)

入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,046人)、2位東京 (306人)、3位熊本 (236人)
 短期大学 : 1位福岡 (150人)、2位大阪 (8人)、3位佐賀 (5人)

宮崎県



学校数

大学 : 7 (国立 1・公立 2・私立 4)
 短期大学 : 2 (私立 2)
 専門学校 : 32 (公立 1・私立 31)

卒業者数

2011年10,916人→2020年10,080人 (836人減少)

進学者数

大学 : 2011年3,885人→2020年3,800人 (85人減少)
 短期大学 : 2011年 640人→2020年 493人 (147人減少)
 専門学校 : 2011年1,859人→2020年1,791人 (68人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年35.6%→2020年37.7% (2.1ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年 5.9%→2020年 4.9% (1.0ポイント低下)
 専門学校 : 2011年17.0%→2020年17.8% (0.8ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年25.3%→2020年26.7% (1.4ポイント上昇)
 短期大学 : 2011年60.1%→2020年60.7% (0.6ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位鹿児島 (200人)、2位福岡 (163人)、3位大分 (126人)
 短期大学 : 1位鹿児島 (6人)、2位長崎・熊本 (2人)

入学者流出先

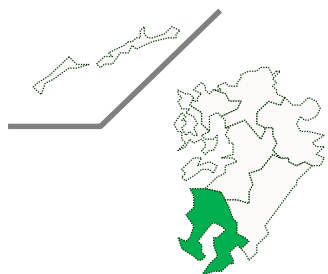
大学 : 1位福 (820人)、2位東京 (363人)、3位熊本 (277人)
 短期大学 : 1位福岡 (97人)、2位大分 (35人)、3位鹿児島 (25人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

九州沖縄工リア概要（全体：県別）

鹿児島県



学校数

大学 : 6 (国立 2・私立 4)
短期大学 : 4 (公立 1・私立 3)
専門学校 : 38 (公立 2・私立 36)

卒業者数

2011年17,007人→2020年14,427人 (2,580人減少)

進学者数

大学 : 2011年5,195人→2020年4,717人 (478人減少)
短期大学 : 2011年1,392人→2020年 970人 (422人減少)
専門学校 : 2011年3,455人→2020年2,871人 (584人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年30.5%→2020年32.7% (2.2ポイント上昇)
短期大学 : 2011年 8.2%→2020年 6.7% (1.5ポイント低下)
専門学校 : 2011年20.3%→2020年19.9% (0.4ポイント低下)

残留率

大学 : 2011年34.5%→2020年33.1% (1.4ポイント低下)
短期大学 : 2011年72.4%→2020年75.2% (2.8ポイント上昇)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位福岡 (274人)、2位宮崎 (231人)、3位熊本 (228人)
短期大学 : 1位宮崎 (25人)、2位熊本 (3人)、3位京都・福岡・長崎 (2人)

入学者流出先

大学 : 1位福岡 (1,062人)、2位東京 (585人)、3位熊本 (340人)
短期大学 : 1位福岡 (118人)、2位大分 (25人)、3位東京 (22人)

学校数

大学 : 8 (国立 1・公立3・私立 4)
短期大学 : 2 (私立 2)
専門学校 : 53 (私立 53)

卒業者数

2011年15,015人→2020年14,509人 (506人減少)

進学者数

大学 : 2011年4,900人→2020年5,409人 (509人増加)
短期大学 : 2011年 584人→2020年 469人 (115人増加)
専門学校 : 2011年3,744人→2020年3,742人 (2人減少)

進学率(現役)

大学 : 2011年32.6%→2020年37.3% (4.7ポイント上昇)
短期大学 : 2011年 3.9%→2020年 3.2% (0.7ポイント低下)
専門学校 : 2011年24.9%→2020年25.8% (0.9ポイント上昇)

残留率

大学 : 2011年57.9%→2020年47.7% (10.2ポイント低下)
短期大学 : 2011年68.1%→2020年69.8% (1.7ポイント上昇)

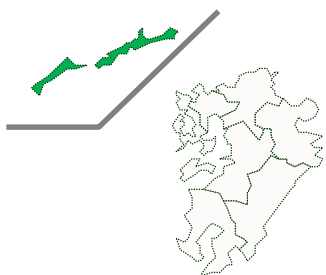
入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位鹿児島 (78人)、2位福岡 (54人)、3位東京 (48人)
短期大学 : 1位新潟・東京・愛知・福岡・鹿児島 (1人)

入学者流出先

大学 : 1位東京 (778人)、2位福岡 (456人)、3位大阪 (249人)
短期大学 : 1位福岡 (26人)、2位東京 (23人)、3位岐阜・大阪 (20人)

沖縄県



- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2020年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校※2)÷高等学校卒業業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査
第9回 高校生と保護者の進路に関する意識調査2019

保護者の57%が 子どもの将来に「AIの影響がある」と回答 前回調査より18ポイント増加

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長：柏村 美生）と一般社団法人全国高等学校PTA連合会（所在地：東京都千代田区 会長：牧田 和樹）は、高校2年生とその保護者に対し、進路に関する考え方やコミュニケーションの実態を探る調査を実施いたしました。ここに集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。本調査によるリリースは「教育改革」編、「AIの将来への影響」編の計2つあり、本リリースは「AIの将来への影響」編です。

【将来へのAI影響について】

- AIは将来に「影響がある」と回答した高校生は保護者より9ポイントも高かった。…P.3
 - ・ 「影響がある」 高校生（65.9%） > 保護者（56.5%）
- 「影響がある」を経年でみると、高校生より保護者の方が増加幅が大きかった。…P.3

高校生	2017年:52.0%	→	2019年:65.9%	+13.9ポイント
保護者	2017年:38.7%	→	2019年:56.5%	+17.8ポイント

【これからの社会について】

- 高校生の51%、保護者の37%が、これからの社会は「好ましい」と回答。
高校生は「好ましい」が「好ましくない」を上回り、半数を超えている。…P.4
 - ・ 高校生 「好ましい」（51.4%） > 「好ましくない」（44.4%）
 - ・ 保護者 「好ましい」（37.1%） < 「好ましくない」（46.8%）

【就いてほしい職業・就きたい職業】

- 高校生の「就きたい職業」のトップは「教師」11%。
- 保護者の「就いてほしい職業」のトップは「公務員」37%。…P.5

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生と保護者の進路に関する意識調査2019」

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ・一般社団法人全国高等学校PTA連合会合同調査”と明記ください。

リクルートマーケティングパートナーズではこれからも、ひとりひとりにあった「まだ、ここにはない、出会い。」を届けることを目指していきます。

【本件に関するお問い合わせ先】

http://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/

【リクルート進学総研 WEBサイト】

<http://souken.shingakunet.com/>

【調査概要】

- ・調査目的：高校生を持つ保護者とその子どもにおけるコミュニケーションの実態と進路観の現状を把握する
- ・調査主管：株式会社リクルートマーケティングパートナーズ、一般社団法人全国高等学校PTA連合会
- ・調査対象：高校2年生とその保護者
一般社団法人全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県、各3校ずつ計27校の公立高校
※各校：2年生2クラスの生徒とその保護者

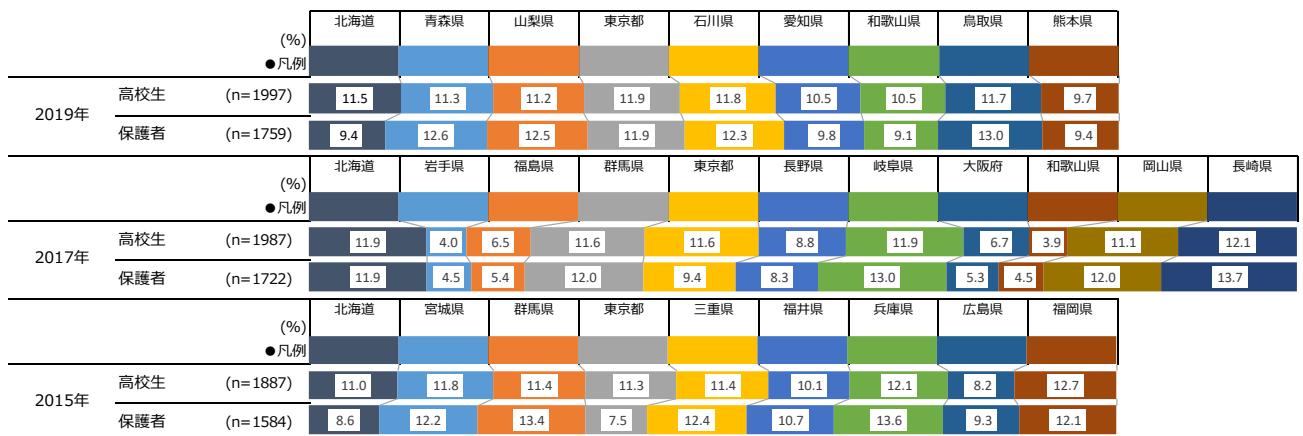
2019年	北海道 青森 山梨 東京 石川 愛知 和歌山 鳥取 熊本
2017年	北海道 岩手 福島 群馬 東京 長野 岐阜 大阪 和歌山 岡山 長崎
2015年	北海道 宮城 群馬 東京 三重 福井 兵庫 広島 福岡

※調査実施校所在地は毎年変わるため、時系列データは参考

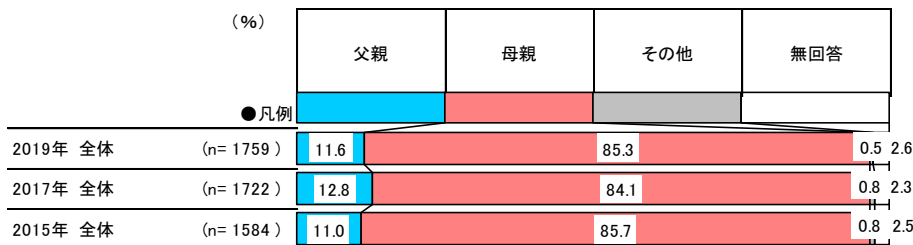
- ・調査期間：2019年9月1日（日）～2019年10月25日（金）回収終了
- ・調査方法：（1）高校生 ホームルーム時にアンケート実施
（2）保護者 高校生から保護者へアンケートを手渡しで依頼、実施
クラスごと学級担任が高校生・保護者アンケートをまとめ、学校ごとに回収
- ・有効回収数：（1）高校生 1997名 ※全問無回答1名を除く
（2）保護者 1759名 ※全問無回答6名を除く
※調査対象校のうち1校において、下記設問に不備がある調査票が配布されたため、集計対象から除外した。
高校生：教育改革への期待と不安（本リリース掲載なし）
保護者：教育改革への期待と不安、子どもとの日常コミュニケーション（本リリース掲載なし）

【回答者プロフィール】

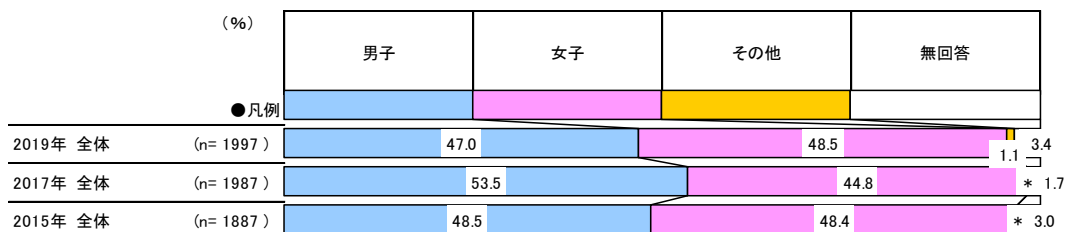
【高校生・保護者】時系列 調査対象校所在都道府県（全体）



【保護者】時系列 続柄（全体／単一回答）

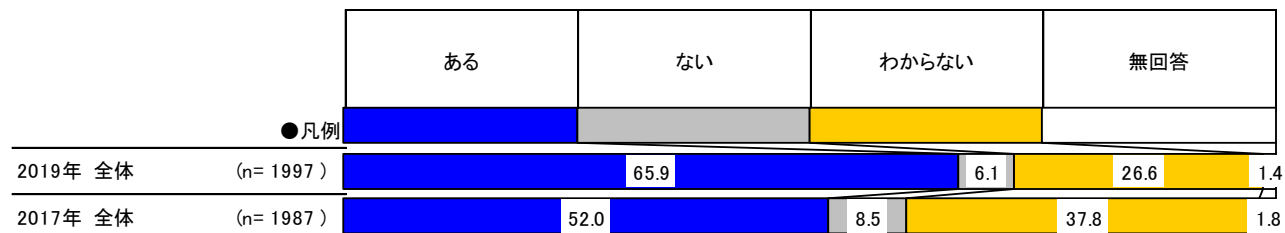


【高校生】時系列 性別（全体／単一回答）



- AIの将来への影響について、「影響がある」と回答した
高校生は66%、保護者は57%と、高校生のほうが9ポイント高かった。
- 「影響がある」を経年でみると、保護者が18ポイント増加し半数を超えた。
高校生 2017年:52.0% → 2019年:65.9% +13.9ポイント
保護者 2017年:38.7% → 2019年:56.5% +17.8ポイント

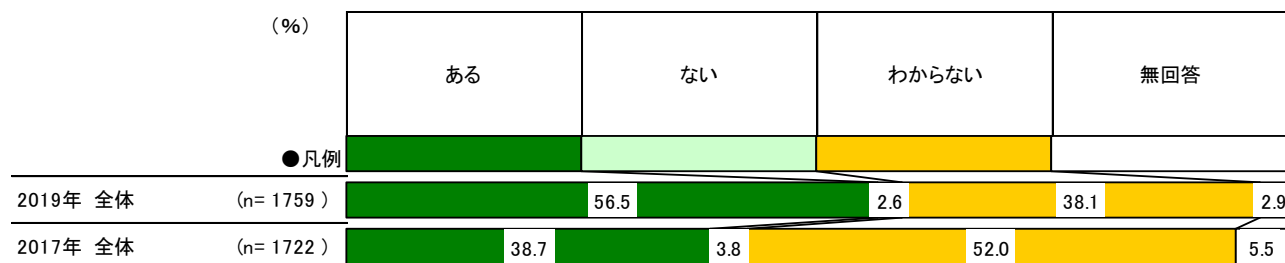
【高校生】時系列 自分の将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか (全体/単一回答)



【高校生】AIが普及していく時代に自分に必要な力について (フリーコメント)

- 「A I では再現できない能力や技術を用いて新しい物を創造する力。」
- 「A I と共生していく力。A I を利用する力。」
- 「A I を適切に、有効的に利用しつつ、人間の主体性を失わない。」
- 「アイデア力、『答えのない課題』に対する意欲、知識、対応力。」
- 「クリエイティブな発想を生み出す力。」
- 「A I にまさる能力がなくても、人には感情があるから、人と一緒に仕事するうえで人の気持ちを考えて働ける力。」
- 「A I と共に生きていく適応能力。」

【保護者】時系列 子どもの将来にAI(人工知能)などの普及・発達の影響があると思うか (全体/単一回答)



【保護者】AIが普及していく時代に子どもたちに必要な力について (フリーコメント)

- 「AI (人工知能) が作業をするには人間と違いエラーなど起こさない。完璧な仕上がりは人間より優れている。だが、人間にはAI にはない人間社会で大切なもの“思いやり”を持っている。グローバル化を生きる多様性を重視するそんな力を子どもたちには大事にしてほしい。」
- 「新しい価値や仕事を想像する力。」
- 「人間力と倫理観。」
- 「正しい情報を入手し、自ら判断する力。」
- 「A I と共存する力が必要。」

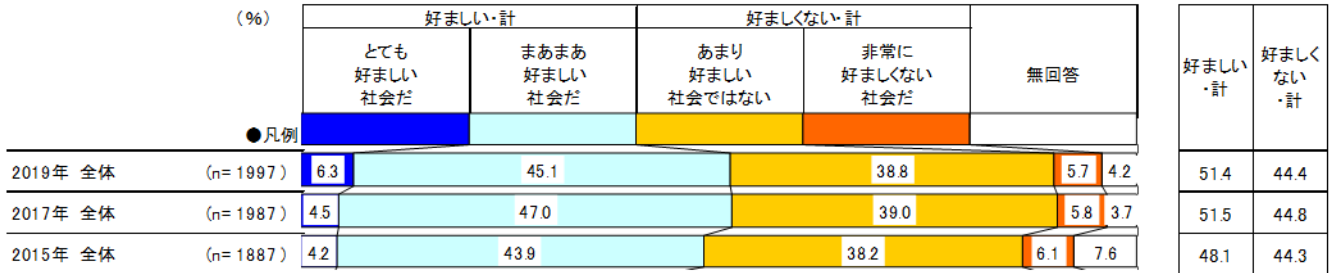
【高校生・保護者：これからの社会は好ましいか】

■ 高校生の51%、保護者の37%が、これからの社会は「好ましい」と回答。

高校生は「好ましい」が「好ましくない」を上回り、半数を超えている。

- ・ 高校生 「好ましい」 (51.4%) > 「好ましくない」 (44.4%)
- ・ 保護者 「好ましい」 (37.1%) < 「好ましくない」 (46.8%)

【高校生】時系列 未来展望：これからの社会は好ましいか（全体／単一回答）



【高校生】

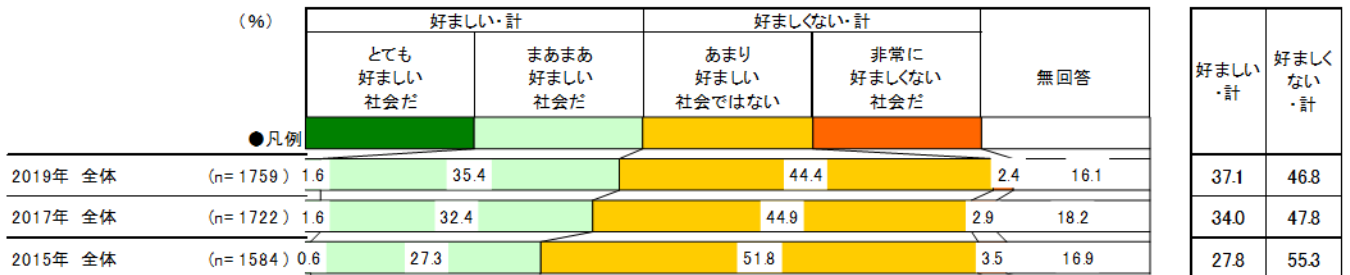
好ましい：

「グローバル化になっていくので、自ら発信していく力が必要であり、多くの人と交流できるから。」
 「働き方改革や男女平等など社会問題に社会全体で取り組んでおり、改善されていくと思うから。」
 「女性も働きやすくなっているから。」 「個性ある人に活躍のチャンスがあるから。」

好ましくない：

「これからA I の時代になり、人手が余り、職につくことができるか不安だから。」
 「SNSなどで大量の情報が飛び交うから、これからどうなっていくのか予想しづらいから。」
 「オリンピックが終わったら景気が良くなる。」 「ブラックな企業が増えているから。」

【保護者】時系列 これからの社会は好ましい社会か（全体／単一回答）



【保護者】

好ましい：

「多様性が認められている社会だから。」 「従来の価値観にとらわれない新しい発想が求められる時代だから」
 「グローバル化で視野を広げていき、語学をはじめ様々な知識を身につけて活かしていける事ができる為。」
 「IT化が進む中、働き方・学び方が多様化、国際化し、選択肢が増えたため。」
 「男女格差の縮小、選択の自由の拡大。」

好ましくない：

「A I の普及や海外からの労働者の増加により、より高度な能力を要求されるようになるから。」
 「SNSやスマホの普及により、様々な場面で色んな問題が起こり、規制が増えていくであろうから。」
 「親の経済力で子供の将来がきまるから。」
 「環境問題や年金問題、また高齢社会になっていく事への問題などすべて先送りになっているので。」

【高校生・保護者：就きたい（就いてほしい）職業】

■高校生の「就きたい職業」のトップは「教師」11%。

・男子1位「公務員」 女子1位「看護師」

■保護者の「就いてほしい職業」のトップは「公務員」37%。

・子どもの性別：男子1位「公務員」 女子1位「公務員」

【高校生】就きたい職業(自由記入をコーディング/複数回答/就きたい職業があると回答したうち、有効記入があったもの)

全体 (n=1093)	男子 (n= 455)	女子 (n= 601)
1 教師 11.4	1 公務員 15.6	1 看護師 14.6
2 公務員 10.0	2 教師 14.9	2 教師 8.8
3 看護師 9.1	3 建築士・建築関連 10.5	3 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 7.2
4 建築士・建築関連 6.1	4 医師・歯科医師・獣医 7.5	4 公務員 6.2
5 医師・歯科医師・獣医 5.9	5 技術者・研究者 7.3	5 医師・歯科医師・獣医 4.8
6 技術者・研究者 4.3	6 製造業（自動車・造船など） 6.6	6 放射線技師・臨床検査技師 3.8
7 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 4.2	7 エンジニア・プログラマー・IT関連 5.3	7 薬剤師 3.5
8 薬剤師 3.0	8 薬剤師 2.6	8 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 3.3
9 製造業（自動車・造船など） 2.9	9 看護師 2.2	9 美容師・ヘアメイクアーティスト・美容関連 2.8
10 放射線技師・臨床検査技師 2.7	9 調理師・シェフ・パティシエ・フード関連 2.2	9 建築士・建築関連 2.8
10 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 2.7	9 会社員 2.2	
10 エンジニア・プログラマー・IT関連 2.7		

その職業に就きたい理由：

- 教師： 「先生達が教えているのが楽しそう。生徒とふれあうのが好き。」（女子）
「あこがれの先生のように子供と成長していける職業だから魅力を感じる。」（女子）
- 公務員： 「仕事が安定するし、休みがちゃんとある。給料も高い。安定している。」（女子）
「安定した収入を得られる。就きたいと小さい頃から思っていたから。」（男子）
- 看護師： 「多くの人と関わることが出来、安定した職業だと思うから。」（女子）
「幼い頃、一度入院した時に色々なお話をしてくれた、看護師さんにあこがれたから。また、医療関係の職に興味があるから。」（女子）

【保護者】就いてほしい職業(自由記入をコーディング/複数回答/就いてほしい職業があると回答したうち、有効記入があったもの)

全体 (n= 182)	子どもの性別：男子 (n= 84)	子どもの性別：女子 (n= 95)
1 公務員 37.4	1 公務員 50.0	1 公務員 27.4
2 看護師 11.5	2 教師 9.5	2 看護師 21.1
3 教師 8.2	3 医師・歯科医師・獣医 6.0	3 医療事務・医療関連 8.4
4 医療事務・医療関連 7.1	4 薬剤師 4.8	4 教師 7.4
5 医師・歯科医師・獣医 5.5	4 医療事務・医療関連 4.8	5 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 5.3
6 薬剤師 4.4	4 技術者・研究者 4.8	5 放射線技師・臨床検査技師 5.3
7 保育士・幼稚園教諭・幼児保育関連 3.3	7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 2.4	7 医師・歯科医師・獣医 4.2
7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 3.3	7 製造業（自動車・造船など） 2.4	7 薬剤師 4.2
9 放射線技師・臨床検査技師 2.7	7 建築士・建築関連 2.4	7 管理栄養士・栄養士 4.2
9 技術者・研究者 2.7	7 会社員 2.4	7 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・リハビリ 4.2
9 会社員 2.7		

その職業に就いてほしい理由：

- 公務員： 「安定した収入が得られること。福利厚生などが充実している。」
「安定感。女の子なので、将来、結婚、出産等があっても仕事を続ける事ができそう。」
- 看護師： 「結婚・出産で仕事を離れてもまた復帰できる。全国どこにでも病院はあり、大きい病院、小さい病院、夜勤など選択肢もある。歳をとっても長く働ける。」
「高齢化社会で需要がある。資格があれば転職に困らない。やりがいがありそう。」
- 教師： 「A I では変わらない。これから人間性が重要な職であるから。」

※「公務員」は警察・消防・自衛官を含む
※「上位10位まで」を掲載

九州女子大学

令和5（2023）年度新設3学科
家政学部 「生活デザイン学科（仮称）」
人間科学部 「児童・幼児教育学科（仮称）」
人間科学部 「心理・文化学科（仮称）」

学生確保の見通し調査
（設置構想についての高校生アンケート調査）

報告書

令和4（2022）年2月

株式会社 高等教育総合研究所

目次

1. 設置構想についての高校生アンケート調査の概要	2
2. 質問項目の集計結果	3
3. 集計結果のポイント	6
<hr/> 学生確保の見通し調査結果 まとめ	11
<hr/> 添 付 資 料	12

1. 設置構想についての高校生アンケート調査の概要

調査目的	九州女子大学が令和5（2023）年度4月に設置構想中の以下の3学科について、学生確保の見通しについて検証するために高校生アンケート調査を行った。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 家政学部 「生活デザイン学科（仮称）」（入学定員：60名） ■ 人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」（入学定員：100名） ■ 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」（入学定員：90名）
調査時期	令和3（2021）年11月～令和4（2022）年1月
調査対象	令和3年度現在の高校2年生女子（新学科設置時に大学進学時期を迎える者）
調査内容	選択式の7問。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答者の基本情報（性別、居住地、希望進路、関心のある学問分野） ■ 設置構想中の新学科への受験・入学意向、もしくは受験しないを選択した理由
有効回答件数	3,650件（回収件数：5,714件） ※問1で「女性」と回答した者のみを集計対象とした。 ※実施校の内訳は下表の通り

◆実施校の内訳表

都道府県	公立	私立	小計
山口県	3	1	4
福岡県	28	8	36
佐賀県	1	1	2
長崎県	0	1	1
熊本県	4	1	5
大分県	3	3	6
宮崎県	0	1	1
鹿児島県	1	1	2
沖縄県	1	0	1
総計	41	17	58

2. 質問項目の集計結果

※本調査結果は、問1で「女性」と回答した者のみ取り扱っている。そのため、問1は掲載していない。

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
九州女子大学 令和5（2023）年度新設3学科（家政学部「生活デザイン学科（仮称）」人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」人間科学部「心理・文化学科（仮称）」設置構想についての高校生アンケート調査	3,650件

問2 あなたがお住まいの県をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	福岡県	2,554	70.0%
2	佐賀県	142	3.9%
3	熊本県	145	4.0%
4	大分県	283	7.8%
5	宮崎県	36	1.0%
6	鹿児島県	183	5.0%
7	沖縄県	45	1.2%
8	山口県	241	6.6%
9	その他	18	0.5%
	無回答	3	0.1%
合計		3,650	100.0%

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。（現時点で最もあてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	進学	3,135	85.9%
2	就職	262	7.2%
3	現時点では未定	248	6.8%
	無回答	5	0.1%
合計		3,650	100.0%

問4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

※複数回答のため、回答数は延べ

※回答率は、回答者 3,650 人のうち、各項目を挙げた者の割合

	選択項目	回答数	回答率
1	人文科学(心理学、文学、史学、哲学、外国語学など)	1,121	30.7%
2	家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)	634	17.4%
3	教育学・保育学	972	26.6%
4	社会科学(法学・政治学、経営学、経済学、社会学など)	622	17.0%
5	理学・工学(物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、建築学など)	253	6.9%
6	農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など)	178	4.9%
7	医学・歯学・薬学	509	13.9%
8	保健衛生学(看護学、リハビリテーション医学など)	898	24.6%
9	芸術学(音楽、デザイン、美術など)	848	23.2%
10	その他	535	14.7%

問5 あなたは九州女子大学が令和5(2023)年度に設置予定の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	家政学部「生活デザイン学科(仮称)」を受験したい	153	4.2%
2	人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」を受験したい	236	6.5%
3	人間科学部「心理・文化学科(仮称)」を受験したい	211	5.8%
4	いずれの学科も受験したいと思わない	2,976	81.5%
	無回答	74	2.0%
合計		3,650	100.0%

問6は、問5で「受験したい」と回答した 600 人が回答対象である。

問6 あなたは問5で「受験したい」とした九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

	選択項目	回答数	構成比
1	合格した場合、入学したい	283	47.2%
2	合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい	310	51.7%
	無回答	7	1.2%
合計		600	100.0%

問7は、問5で「受験しない」と回答した2,976人が回答対象である。

問7 あなたが九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

※複数回答のため、回答数は延べ

※回答率は、回答対象者2,976人のうち、各項目を挙げた者の割合

	選択項目	回答数	回答率
1	九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	83	2.8%
2	九州女子大学の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	75	2.5%
3	九州女子大学の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	79	2.7%
4	興味・関心のある学科ではないから	1,103	37.1%
5	国公立大学への進学を希望しているから	654	22.0%
6	他の私立大学への進学を希望しているから	566	19.0%
7	短期大学・専門学校への進学を希望しているから	746	25.1%
8	就職を希望しているから	209	7.0%
9	進路は未定だから	292	9.8%
10	通学に時間がかかりそうだから	158	5.3%
11	学費が高いから	184	6.2%
12	その他	59	2.0%

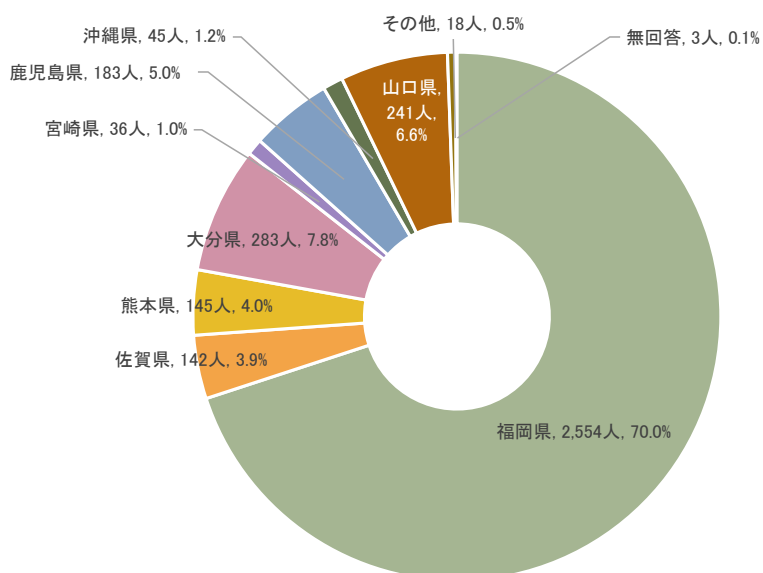
3. 集計結果のポイント

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

① 回答者の基本情報

本アンケート調査の回答者（3,650人）は、全て令和3（2021）年度における高校2年生かつ女性である（事前に性別無回答、または「男性」とした回答アンケートはすべて除外）。回答者の居住地については全体の70.0%にあたる2,554人が「福岡県」、次いで大分県を含む九州各県、山口県などであった。福岡県北九州市にキャンパスを置く九州女子大学は福岡県を始めとする九州地方ならびに西で隣接する山口県を学生確保の基盤としており、本アンケートの対象者として適切であるといえる。

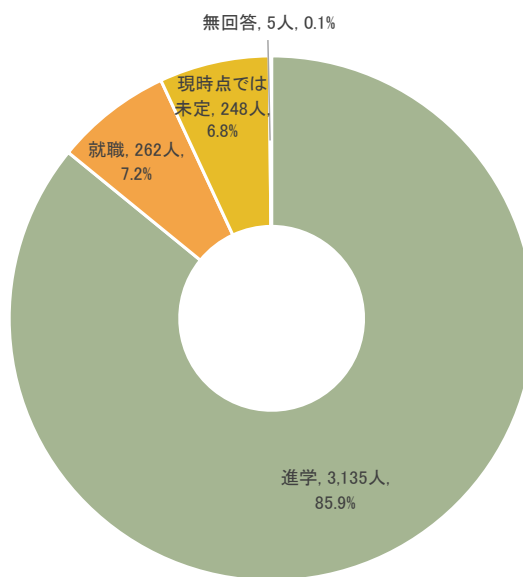
グラフ1



② 8割以上の回答者が、高校卒業後に「進学」を希望

現時点での高校卒業後の希望する進路先について質問したところ、回答者の85.9%にあたる3,135人が「進学」と回答した。次いで、「就職」が262人(7.2%)、「現時点では未定」が248人(6.8%)の順であった。

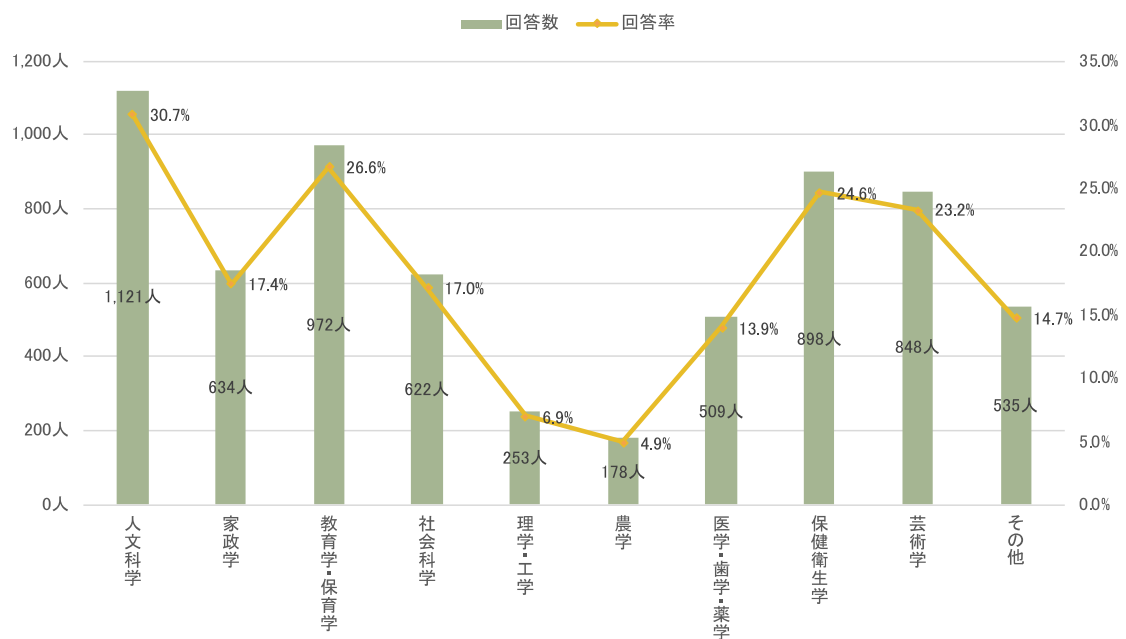
グラフ2



③ 「人文科学」に興味を持つ者が最多、「教育学・保育学」が2番目、「家政学」が5番目

関心のある学問分野について質問したところ、「生活デザイン学科（仮称）」に関連する「家政学」は634人（全体の17.4%）、「児童・幼児教育学科（仮称）」に関連する「教育学・保育学」は972人（26.6%）、「心理・文化学科（仮称）」に関連する「人文科学」は1,121人（30.7%）がそれぞれ回答した。「人文科学」に興味・関心を持つ回答者が最も多く、次いで「教育学・保育学」という順で、「家政学」も全体では5番目に多かった。

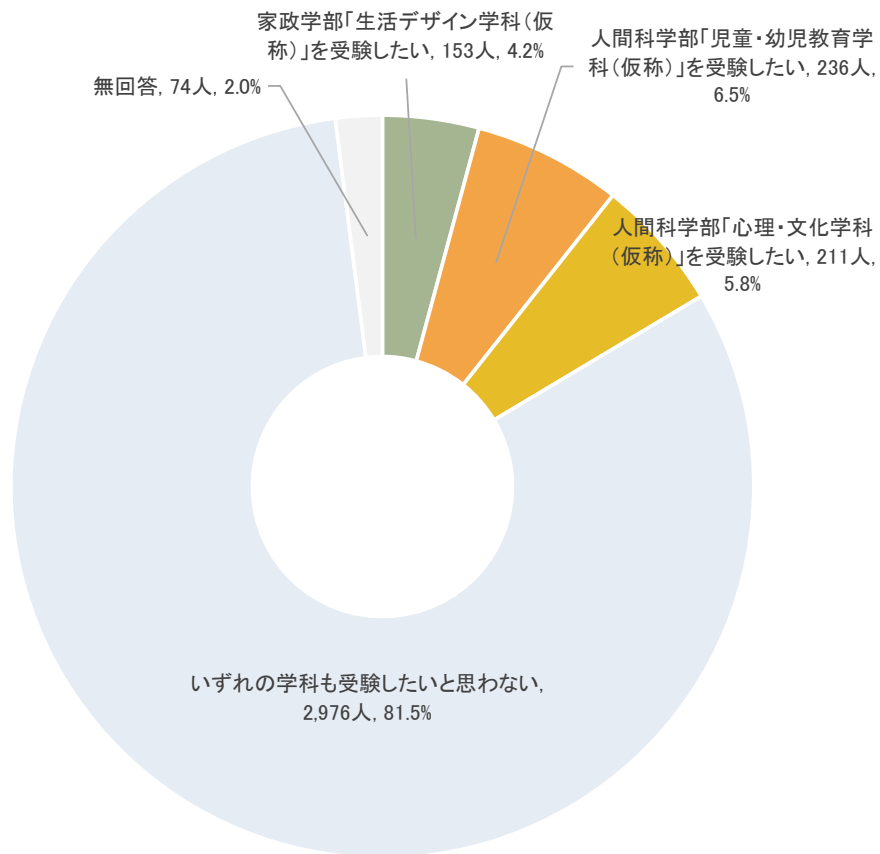
グラフ3



④ 新設 3 学科の受験意向について

令和 5 (2023) 年度に設置予定の新設 3 学科の受験意向について質問したところ、「受験したい」と受験意志を示したのは、家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が 153 人(全体の 4.2%)、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が 236 人(6.5%)、また、心理・文化学科(仮称)が 211 人(5.8%)であった。

グラフ4



⑤ 新設3学科への入学意向について

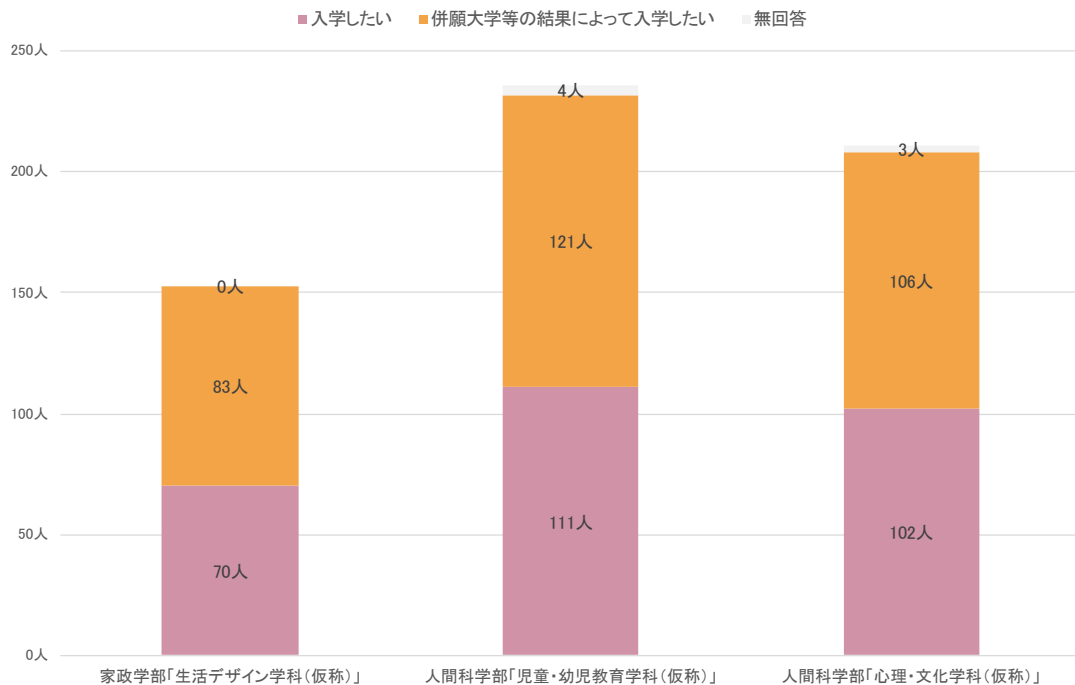
九州女子大学が令和5（2023）年度に設置予定の3学科のいずれかに対し、問5で「受験したい」と回答した者に問6で入学意志について質問した。クロス集計の結果より、家政学部「生活デザイン学科（仮称）」を「合格した場合、入学したい」と回答したのが70人、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのが83人であった。

人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」を「合格した場合、入学したい」と回答したのが111人、「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」と回答したのが121人であった。

人間科学部「心理・文化学科（仮称）」を「合格した場合、入学したい」と回答したのが102人、「合格した場合、併願大学等の結果によっては入学したい」と回答したのが106人であった。

以上の結果は、九州女子大学が予定する各学科の入学定員を大きく上回った結果であった。

グラフ5



学生確保の見通し調査結果 まとめ

九州女子大学が令和 5（2023）年度に設置予定の家政学部「生活デザイン学科（仮称）」人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」人間科学部「心理・文化学科（仮称）」の学生確保の見通しについて検証を行うため、九州女子大学が学生確保の基盤する福岡県を九州地方ならびに山口県の高校にアンケート調査実施を依頼した。

結果 58 校からご協力をいただき、2 年生女子（令和 5 年度に大学進学時期を迎える者）の合計 3,650 人からアンケート調査の回答を得た。

新設 3 学科の概要を示した上で受験・入学意向についての回答を求めた結果、問 5 で「受験したい」かつ問 6 で「合格した場合、入学したい」と回答したのは、家政学部「生活デザイン学科（仮称）」（入学定員 60 名予定）が 70 人、人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」（入学定員 100 名予定）が 111 人、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」（入学定員 90 名予定）が 102 人であった。

「合格した場合、入学したい」と強い入学意志を示した者だけでも、各学科が予定する入学定員を上回る結果となった。「合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい」を含めると、本アンケート調査の結果のみでもいずれの新設 3 学科すべてで入学定員の 2 倍以上の受験者が見込める結果が得られた。

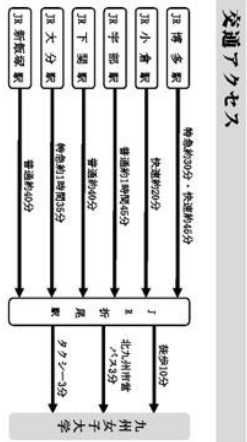
したがって、九州女子大学が令和 5（2023）年度に設置構想中である家政学部「生活デザイン学科（仮称）」、人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」はいずれも学生確保の見通しについて入学定員充足の見通しがあると推察さえる。

以上

添 付 資 料

- 資料1 九州女子大学 令和5年度新設3学科概要
- 資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙

資料1 九州女子大学 令和5年度新設3学科概要



学費 (他大学含む)

大学名	学部名	学科名	所在地	入学金	授業料、施設費等	初年度合計
九州女子大学	家政学部	生活デザイン学科(仮称)	北九州府八幡宮区	280,000	904,000	1,184,000
		生活デザイン学科	福岡市	290,000	967,000	1,257,000
福岡女子大学	家政学部	生活デザイン学科	福岡市早良区	90,000	1,140,000	1,230,000
		生活デザイン学科	福岡市早良区	90,000	1,140,000	1,230,000
九州女子大学	人間科学部	児童福祉教育学科(仮称)	北九州府八幡宮区	290,000	940,000	1,230,000
		児童福祉教育学科	福岡市早良区	290,000	1,030,000	1,320,000
福岡女子大学	人間科学部	児童福祉教育学科	福岡市早良区	210,000	975,000	1,185,000
		児童福祉教育学科	福岡市早良区	210,000	975,000	1,185,000
九州女子大学	人間科学部	心理文化学科(仮称)	北九州府八幡宮区	290,000	940,000	1,230,000
		心理文化学科	福岡市早良区	210,000	975,000	1,185,000
福岡女子大学	人間科学部	心理文化学科	福岡市早良区	210,000	975,000	1,185,000
		心理文化学科	福岡市早良区	210,000	975,000	1,185,000

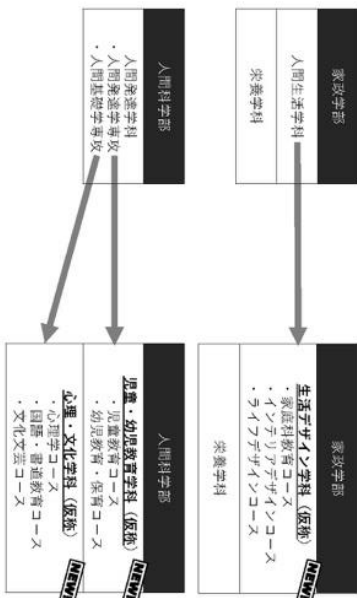
- ◆ 九州女子大学が設置構想中の各学科の学費は予定のものです。
- ◆ 他大学の学費は各大学ホームページ掲載情報です(令和3(2021)年9月10日時点)。
- ◆ いずれの大学も諸学費(委託課収受費)を含みません。

上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

令和5(2023)年4月、九州女子大学が生まれ変わります。

令和3(2021)年度現在

令和5(2023)年度予定



この「概要」をご覧の上、別紙・高校生アンケート調査にご回答ください。

上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。

令和5(2023)年4月、九州女子大学に新たに開設予定の学科

家政学部

生活デザイン学科

資格・
設置構想中

入学定員60人(収容定員30人)／修業年限:4年／学位:学士(家政学)

養成する人材

生活者の視点で家庭や学校、地域社会の課題を解決する力を養い、学校教育および社会の各業界等で活躍できる人材を育成します。

学科の特色

- 専門教育科目による学内外での活動を通して、社会で通用する豊かなコミュニケーション能力を養います。
- 衣生活や生活経営等、大学で学ぶ知識や技術を活かすことができる地域活動を行います。
- 将来の進路に応じた資格取得を、専門知識の豊富な教員による丁寧なサポートを通して目指します。
- さらに2年次以降は目的に応じた3つのコースに分かれ、専門性を高めることができます。

家庭科教育コース	インテリアデザインコース	ライフデザインコース
1年次から教員免許取得必修科目として、新設設けられた教育実習科目。新設設けられた授業で調理技術や縫製技術、生活デザインに関する実習を行う。また、生活デザインに関する実習を行う。また、生活デザインに関する実習を行う。	在学生中のインテリアデザイナーを目指す。インテリアデザイナーとしての定着を図る。インテリアデザイナーとしての定着を図る。インテリアデザイナーとしての定着を図る。	生活・消費の現場から消費者行動を分析し、マーケティング戦略を立案する。マーケティング戦略を立案する。マーケティング戦略を立案する。

想定される進路

- 教育現場で求められる実践力をもち、家庭科教員(公立中学校・高等学校、短大や私立大学・短期大学、専修学校)など
- 女性目線を活かした住の専門家(インテリアコーディネーターなど)
- 設計事務所、インテリア企業、インテリアデザイナーなど
- 暮らしやサービスに関わりのあるまちづくりに貢献する仕事(公務員・社会福祉施設、商品企画・商品開発、マーケティングなど)
- 地域経済の活性化やよりよい人生の実現に寄与する仕事(銀行等の地方金融機関、生命保険会社、情報通信企業、サービス業など)
- 豊かな食を提供できる企業や時代のニーズに応えたコンテンツの提案ができる企業(食品製造企業、コンテンツ制作、アパレル販売企業など)

人間科学部

児童・幼児教育学科

資格・
設置構想中

入学定員100人(収容定員40人)／修業年限:4年／学位:学士(教育学)

養成する人材

子どもの教育および発達支援の諸問題に関する専門的知識と技術の教授を通じて地域社会に貢献できる専門職業人材を育成します。

学科の特色

- 少人数制によるキャリア支援教育 総合教養教育、教育学・保育学の専門教育を通して質の高い学士力と、多様化し複雑化する現代社会をリードできる力を身につけます。
- 児童・幼児教育、保育、特別支援教育に関する専門的知識 地域におけるフィールドワーク、アクティブラーニングを通して時代のニーズに応じた教育・保育の力を活かし、地域の発展に貢献できる実践力を身につけます。
- 小学校教員 特別支援学校教員 幼稚園教員 保育士を組み合わせることで取得することによって得意分野をもった専門性の高い人材の育成を、少人数制の徹底サポートを通して行います。
- さらに2年次以降は目的に応じた2つのコースに分かれ、専門性を高めることができます。

児童教育コース	幼児教育・保育コース
児童の発達・成長に関する基礎知識と実践的知識を習得します。	児童の発達・成長に関する基礎知識と実践的知識を習得します。

想定される進路

- 教育職 特別支援学校教員、幼稚園教員など
- 保育・福祉職 (保育士、児童福祉司、児童福祉施設職員など)
- 行政職や公共団体で地域サービスやまちづくりに貢献(公務員・社会福祉施設、商品企画・商品開発など)
- 地域社会の発展を担う企業(教育関連企業、経営者、起業家など)
- 研究・調査などによる地域貢献や学問としての知見を深めるため大学院に進学

心理・文化学科

資格・
設置構想中

入学定員90人(収容定員36人)／修業年限:4年／学位:学士(文学)

養成する人材

現代社会の課題に対応するヒューマンケア、教育、文化の新たな共創と発信を通じて社会に貢献できる幅広い職業人材を育成します。

学科の特色

- 現代を取り巻く人的環境・特性を理解し、人を変え、社会を変える専門的能力の獲得(キャリア支援教育/科目履修教育/心読学、国語・書道、文化史の専門教育)
- ヒューマンケア、教育、企業・組織に従事する者に必要となる実践的応用力の獲得(専門的知識の獲得と応用の促進/現場での体験/実習/アクティブラーニング)
- 少人数制の徹底サポートによる複数の免許・資格を合わせもつ人材の育成(公認心理師/産業カウンセラー/児童福祉司/社会福祉士/児童福祉司/社会福祉士/児童福祉司/社会福祉士)
- 3つのコースと女性育成像 2年次以降は目的に応じた3つのコースに分かれ、専門性を高めます。

心理学コース	国語・書道教育コース	文化芸術コース
多岐なフィールドで活躍する力を身につける。心理学の基礎知識と実践的知識を習得する。	豊かな言語力を基盤とした表現力、読解力、文章力、書道技術を身につける。国語・書道・文化史の専門教育。	伝統的な文化から現代文化まで、幅広い文化芸術の知識と実践的知識を習得する。

想定される進路

- 対人援助職 (保健師/心理士/児童福祉司/社会福祉士/児童福祉司/社会福祉士)
- 教育職 (中学校等の特別支援教員・特別支援学校教員、国語科の指導員など)
- 公務員や一般企業全般(行政・文化・福祉、出版・放送などのコンテンツ産業、一般企業での企画など)
- 人間の心理と文化に関する学問を深め、プロフェッショナルを目指して大学院に進学

2 上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容、学費などは変更となる場合があります。 3

資料2 設置構想についての高校生アンケート調査用紙



九州女子大学

家政学部「生活デザイン学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「心理・文化学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての高校生アンケート調査 (対象：2021年度現在、高校2年生の皆さん)

九州女子大学は令和5(2023)年度に学部学科の改組を行い、家政学部に「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部に「児童・幼児教育学科(仮称)」「心理・文化学科(仮称)」の設置を構想中です。九州女子大学ではこのアンケート調査を通して、令和5(2023)年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからご意見をお聞きし、設置構想の参考とさせていただきますと考えています。ご回答いただいた皆さんから得られた情報は九州女子大学の学部学科構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

※このアンケート調査は九州女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

記入例を参考にご回答ください。



問1 あなたの性別をお答えください。(あてはまるものにマーク)

女性 男性

問2 あなたがお住まいの県をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

福岡県 佐賀県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県 沖縄県 山口県 その他

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。(現時点で最もあてはまるもの1つにマーク)

進学 就職 現時点では未定

問4 あなたが関心のある学問分野をお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)

人文科学(心理学、文学、史学、哲学、外国語学など) 家政学(生活科学、食物学、住居学、被服学など)
 教育学・保育学 社会科学(法学・政治学、経営学、経済学、社会学など)
 理学・工学(物理学、化学、生物学、情報学、機械工学、建築学など)
 農学(農学、農業経済学、林学、水産学、獣医学など) 医学・歯学・薬学
 保健衛生学(看護学、リハビリテーション医学など) 芸術学(音楽、デザイン、美術など)
 その他





問5以降は別紙、九州女子大学 令和5(2023)年度の学部・学科の概要をご覧の上で、女子の方のみお答えください。

問5 あなたは九州女子大学が令和5(2023)年度に設置予定の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 家政学部「生活デザイン学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- 人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- 人間科学部「心理・文化学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問6にお答えください。
- いずれの学科も受験したいと思わない ⇒ 以下の問7にお答えください。

問5で「受験したい」と回答した方は、以下の問6にお答えください。

問6 あなたは問5で「受験したい」とした九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 合格した場合、入学したい
- 合格した場合、併願大学等の結果によって入学したい

問5で「受験しない」と回答した方は、以下の問9にお答えください。

問7 あなたが九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」または「心理・文化学科(仮称)」を「受験しない」とした理由をお答えください。(あてはまるものすべてにマーク)

- 九州女子大学の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 九州女子大学の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 九州女子大学の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」に興味・関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 興味・関心のある学科ではないから
- 国公立大学への進学を希望しているから
- 他の私立大学への進学を希望しているから
- 短期大学・専門学校への進学を希望しているから
- 就職を希望しているから
- 進路は未定だから
- 通学に時間がかかりそうだから
- 学費が高いから
- その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



資料 4

九州女子大学
人間科学部「心理・文化学科（仮称）」

人材需要の見通し調査
(設置構想についての人材需要アンケート調査)
報告書

令和 4 (2022) 年 2 月

株式会社 高等教育総合研究所

目次

1. 設置構想についての人材需要アンケート調査の概要	2
2. 質問項目の集計結果	3
① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査	3
② 医療機関・福祉施設・矯正施設を対象とした人材需要アンケート調査	11
3. 集計結果のポイント	17
① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査	17
② 医療機関・福祉施設・矯正施設を対象とした人材需要アンケート調査	21
人材需要の見通し調査結果 まとめ	25
添付資料	26

1. 設置構想についての人材需要アンケート調査の概要

調査目的	九州女子大学が令和5（2023）年度4月に設置構想中の人間科学部「心理・文化学科（仮称）」（入学定員：90名）について、人材需要の見通しについて検証するために①企業・団体ならびに②医療機関・福祉施設・矯正施設等を対象とした人材需要アンケート調査を行った。
調査時期	令和4（2022）年1月～2月
調査対象	<p>①九州女子大学 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」を含む新設3学科卒業生の採用が見込まれる以下の企業・団体等 合計1,049箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 福岡県が本社または福岡県に拠点をもち企業 643箇所 ■ 福岡県内の社会福祉協議会 76箇所 ■ 九州地方の地方自治体（県市長、町村役場） 282箇所 ■ 九州地方の主要美術館・博物館 48箇所 <p>②九州女子大学 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」卒業生の採用が見込まれる以下の医療機関・福祉施設・矯正施設等 合計518箇所</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 九州地方の医療機関で、以下のいずれかにあてはまる 380箇所 -精神病床を有するすべて -病床種類にかかわらず計300床以上 ■ 九州地方の矯正施設 48箇所 ■ 九州地方の児童養護施設 90箇所
調査内容	<p>① 全13問。12問が選択式、1問が記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答企業・団体の基本情報（主業種、従業員・職員数、所在地） ■ 設置構想中の新学科の社会的ニーズ、卒業生の採用意向 ■ 設置構想中の新学科に期待する点、ご要望等 <p>② 全8問。7問が選択式、1問が記述。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 回答施設の基本情報（施設種類、所在地、心理専門職者の勤務状況・充足状況） ■ 設置構想中の人間科学部「心理・文化学科（仮称）」の社会的ニーズ、卒業生の採用意向 ■ 設置構想中の人間科学部「心理・文化学科（仮称）」に期待する点、ご要望等
有効回答件数	<p>① 280件（回収率26.0%）</p> <p>② 126件（回収率24.3%）</p>

2. 質問項目の集計結果

① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
九州女子大学 令和5（2023）年度新設3学科（家政学部「生活デザイン学科（仮称）」人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」人間科学部「心理・文化学科（仮称）」設置構想についての人材需要アンケート調査	280件

問1 貴社・貴機関の主業種として、最もあてはまるものをお答えください。（最もあてはまるもの1つにマーク）

選択項目	回答数	構成比
1 農業、林業、漁業、鉱業	0	0.0%
2 建設業	15	5.4%
3 製造業	2	0.7%
4 電気、ガス、熱供給、水道業	1	0.4%
5 通信業	2	0.7%
6 放送業、情報サービス業	4	1.4%
7 インターネット付随サービス業	3	1.1%
8 映像・音声・文字情報制作業	0	0.0%
9 運輸業、郵便業	1	0.4%
10 卸売業	5	1.8%
11 小売業	14	5.0%
12 金融業・保険業	9	3.2%
13 不動産業、物品賃貸業	3	1.1%
14 学術研究、専門・技術サービス業	12	4.3%
15 宿泊業、飲食サービス業	4	1.4%
16 生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0%
17 教育、学習支援業	10	3.6%
18 医療、福祉	24	8.6%
19 複合サービス事業	0	0.0%
20 その他のサービス	18	6.4%
21 公務	147	52.5%
22 その他	5	1.8%
無回答	1	0.4%
合計	280	100.0%

問2 貴社・貴機関の従業員・職員数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	～99 人	82	29.3%
2	100～299 人	86	30.7%
3	300～499 人	42	15.0%
4	500～999 人	40	14.3%
5	1,000～2,999 人	16	5.7%
6	3,000～9,999 人	10	3.6%
7	10,000 人～	3	1.1%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問3 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	福岡県	144	51.4%
2	佐賀県	6	2.1%
3	長崎県	15	5.4%
4	熊本県	26	9.3%
5	大分県	12	4.3%
6	宮崎県	12	4.3%
7	鹿児島県	32	11.4%
8	沖縄県	20	7.1%
9	その他	13	4.6%
	無回答	0	0.0%
合計		280	100.0%

家政学部「生活デザイン学科(仮称)」について

問4

九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	9	3.2%
2	ニーズはある程度高い	131	46.8%
3	ニーズはあまりない	35	12.5%
4	ニーズは全くない	9	3.2%
5	わからない	95	33.9%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問5

九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	45	16.1%
2	採用しない	33	11.8%
3	わからない	200	71.4%
	無回答	2	0.7%
合計		280	100.0%

問6は、問5で「採用したい」と回答した 45 件が回答対象である。

問6

九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	1名	21	46.7%
2	2名	11	24.4%
3	3名	7	15.6%
4	4名	0	0.0%
5	5名	2	4.4%
6	6名以上	2	4.4%
	無回答	2	4.4%
合計		45	100.0%

人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	66	23.6%
2	ニーズはある程度高い	159	56.8%
3	ニーズはあまりない	13	4.6%
4	ニーズは全くない	7	2.5%
5	わからない	34	12.1%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問8 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	48	17.1%
2	採用しない	34	12.1%
3	わからない	196	70.0%
	無回答	2	0.7%
合計		280	100.0%

問9は、問8で「採用したい」と回答した48件が回答対象である。

問9 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	1名	35	72.9%
2	2名	5	10.4%
3	3名	3	6.3%
4	4名	0	0.0%
5	5名	1	2.1%
6	6名以上	1	2.1%
	無回答	3	6.3%
合計		48	100.0%

人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について

問10 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	23	8.2%
2	ニーズはある程度高い	153	54.6%
3	ニーズはあまりない	26	9.3%
4	ニーズは全くない	5	1.8%
5	わからない	72	25.7%
	無回答	1	0.4%
合計		280	100.0%

問11 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	35	12.5%
2	採用しない	30	10.7%
3	わからない	212	75.7%
	無回答	3	1.1%
合計		280	100.0%

問12は、問11で「採用したい」と回答した35件が回答対象である。

問12 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	1名	28	80.0%
2	2名	2	5.7%
3	3名	2	5.7%
4	4名	0	0.0%
5	5名	0	0.0%
6	6名以上	1	2.9%
	無回答	2	5.7%
合計		35	100.0%

九州女子大学が設置構想中の新学部・学科について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由
 問13 にご記入ください。特定学部・学科についてコメントいただく場合、お手数ですが最初に「〇〇学部
 について」「〇〇学科について」とご記入いただければ幸いです。

※原文ママ

業種【問1】	記述内容
建設業	学部学科を問わず幅広い採用を行っております。当社は建設業で女子学生にはなかなか人気のない職種ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。
建設業	大変申し訳ありませんが、アンケート先の選定として適合していないかもしれません
電気、ガス、熱供給、水道業	「心理・文化学科について」人でないと成り立たない仕事も多く、専門的な知識を持った人材は今後もニーズが高いと考えられます。
小売業	・それぞれ専門分野に特化し、より求められる人材の育成につながると感じました。 ・当社の採用において新設される3学科の方が該当する職種が「学部・学科不問」のものになりますので、ご縁がありましたらぜひ採用させていただきたく存じますが、特別、この学科でないと、ということはないため、採用可能人数はそれぞれ「1名」とマークさせていただきます。
小売業	貴校は優秀な学生さんが多い印象が強いです。 今回調査対象の学科に限らず、情報とご縁がないため、このような回答しかできませんでした。 採用を目指した活動の一環であれば、一年をかけて情報交換や学校訪問など企画いただくとありがたいと存じます。 コロナ禍で実現が困難かと思いますが、ご検討下さい。
金融業・保険業	今後ともよろしく願います。 既卒のOGの方について、就職を斡旋するようなことがあれば情報をいただければと感じます。
学術研究、専門・技術サービス業	生活デザイン学科における授業内容について、建築基礎知識(建築用語)についての内容を増加していただきたい。
学術研究、専門・技術サービス業	弊社業務とはあまり関連の薄い学科であり、なんとコメントの仕様がありませんが、学生の時に学んだ専門知識以外の職に就くこともよくあると思います。社会人になっても学ぶ姿勢は大切であり、型にはまらずチャレンジする気持ちも必要なのかと考えます。 専門知識がないと就けない職もあると思いますので貴校のご活躍をお祈り致しております。
学術研究、専門・技術サービス業	理数系の知識、OAツール(オフィスソフト、CAD)のスキル、IT、セキュリティのスキルのある人材(コミュニケーション、論理思考がベース)を育成いただければと思います。
宿泊業、飲食サービス業	内容はともかく、学科名から学生が何を学んだのか推測できた方が良い。 「生活デザイン科」とは、どんなことを学ぶのかよくわからない。
教育、学習支援業	人間科学部「児童・幼児教育学部(仮称)」について 学科の特色の中で、専門的知識、地域におけるフィールドワーク、アクティブラーニング等を通して、より社会人としての実践力や活用能力を高めるために、教育施設へのボランティア経験を重視していただき、必須にしてほしい。

教育、学習支援業	当財団(青少年科学館)は、例年 11 月から 12 月にかけて次年度の嘱託員募集要項を作成し、各大学等に送付しております。新学部学科の学生の皆様にもご案内していただければ幸いです。
その他のサービス	まだ小規模組織のため、新卒採用は考えておりません。
その他のサービス	児童・幼児教育学科について、小学校教師不足の解決の一助となると思われる。期待しております。
その他のサービス	女性のキャリアアップを視野に入れた教育
その他のサービス	全学部学科で、学んだ、身につけたことを「どう活かせるか」を考える時間を多く持っていただきたい。想定される進路以外の可能性もあると思います。
その他のサービス	弊社は設計事務所ですが、かつて専門学科ではない女性を採用しましたが、適職だったのか優秀な人材として、会社の糧になっております。 学科に限定されたものではなく、理論的に考えたり、合理的な思考ができる能力が発揮されます。弊社は、意匠設計ではないのでデザインの追求はしていない事務所です。実績はあるので、興味のある方を採用しています。 今後、言われたことをするのではなく、何事にも興味を持ち、柔軟に物事を考えることが必要になると思います。
その他のサービス	弊社は保育園を運営しているため、保育士の採用は考えられます。
公務	ここ数年の採用者において、周囲の人とのコミュニケーション能力が低い、苦手と思われる者が多い傾向にある。学力をつけることはとても大切だと思うが、社会人になってからの人としての基礎、常識を身に付けることが重要であるので、そのような点を期待します。
公務	一般事務職としての採用ではあると思いますが、公務現場において心理カウンセラーや、ヒューマンケアは職員に対しても住民に対してもニーズが高まってくると考えます。(心理・文化学科)
公務	公認心理士が増えることを期待します。
公務	採用については、公募し、競争試験を行うことから「採用したいと思うか」の間には「わからない」と回答しています。
公務	人間科学部について 職員採用試験において、児童、幼児教育や心理学分野の有資格者のみを対象とする試験区分は、現在設けておりません。しかしながら、在職中に公認心理士や社会福祉士の資格を自ら取得しようとする職員もおり、そういった資格を予め有している人材は幼児教育や福祉を所掌する部署を中心に、即戦力として活躍できる可能性があるのではないかと思います。 その意味で、上記のような資格を在学中に取得し高い専門性を持つ人材が育成されることを期待します。
公務	全学部について 地方自治体においても資格免許職の採用が困難な状況にある。 専門職の育成に期待したい。

<p>その他</p>	<p>生活デザイン学科について</p> <p>インテリアデザインコースについては、大川市の基幹産業が木工業(家具製造、建具製造、その木工関連等)になりますので、ニーズはあると思われますが、高いかどうかはわかりません。</p> <p>児童・幼児教育学科について</p> <p>社会情勢的にニーズは高くなるのではないかと感じますが、国の方向性次第だと感じています。当所や当市(地域内)では、未だニーズは低いと考えます。とても重要な分野だと思います。</p> <p>心理・文化学科については、児童、幼児学科と同じ意見です。</p>
------------	--

② 医療機関・福祉施設・矯正施設を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

調査名称	回収総件数
九州女子大学 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」設置構想についての人材需要アンケート調査	126 件

問1 貴機関・貴施設の種類としてあてはまるものをお答えください。（最もあてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	医療機関	64	50.8%
2	矯正施設	17	13.5%
3	児童養護施設	44	34.9%
4	その他	0	0.0%
	無回答	1	0.8%
合計		126	100.0%

問2 貴機関・貴施設の所在地をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

選択項目		回答数	構成比
1	福岡県	39	31.0%
2	佐賀県	3	2.4%
3	長崎県	15	11.9%
4	熊本県	15	11.9%
5	大分県	14	11.1%
6	宮崎県	9	7.1%
7	鹿児島県	21	16.7%
8	沖縄県	10	7.9%
9	その他	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		126	100.0%

問3 貴機関・貴施設における心理専門職者または大学の心理系学科出身者の勤務状況を お答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	専任の心理専門職者が勤務している	72	57.1%
2	非常勤または派遣の心理専門職者が勤務している	14	11.1%
3	大学の心理系学部出身者がおり、専門知識をいかした業務に従事している	18	14.3%
4	大学の心理系学部出身者がおり、心理関連以外の業務に従事している	6	4.8%
5	上記にあてはまる人材はいない	16	12.7%
6	わからない	0	0.0%
	無回答	0	0.0%
合計		126	100.0%

問4 貴機関・貴施設における心理専門職者または大学の心理系学部出身者の 今後の採用見通しについてお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	不足しており、採用数を増やしたい	33	26.2%
2	適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい	53	42.1%
3	過剰であり、採用数を減らしたい	0	0.0%
4	採用にあたって、学部・学科は不問としている	9	7.1%
5	わからない	31	24.6%
	無回答	0	0.0%
合計		126	100.0%

問5 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材(特に心理学を学んだ人材)は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	ニーズは極めて高い	23	18.3%
2	ニーズはある程度高い	76	60.3%
3	ニーズはあまりない	4	3.2%
4	ニーズは全くない	0	0.0%
5	わからない	22	17.5%
	無回答	1	0.8%
合計		126	100.0%

問6 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材(特に心理学を学んだ人材)を、貴機関・貴施設において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	採用したい	40	31.7%
2	採用しない	10	7.9%
3	わからない	76	60.3%
	無回答	0	0.0%
合計		126	100.0%

問7は、問6で「採用したい」と回答した 40 件が回答対象である。

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材(特に心理学を学んだ人材)について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

選択項目		回答数	構成比
1	1名	21	52.5%
2	2名	12	30.0%
3	3名	1	2.5%
4	4名	1	2.5%
5	5名	1	2.5%
6	6名以上	2	5.0%
	無回答	2	5.0%
合計		40	100.0%

問8 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

※原文ママ

業種【問1】	記述内容
医療機関	現在、病院の心理専門職の採用が厳しくなっていますので人材の育成に非常に期待しております。 当院は院卒のみの採用となりますので大学院への進学も十分にさせていただけると幸いです。 今後ともよろしくお願いいたします。
医療機関	公認心理士としての資格もちろん必要であるが、人との関わり方の指導にも力を入れてほしい。
医療機関	公認心理士の受験資格が取得できる大学が増えることは私共精神科病院にとってはありがたいところです。
医療機関	今後、心理職のニーズは高まるとわれ、不足する可能性もあると思います。 当院でもそのような際は情報等お願いしたいと思います。
医療機関	今後の診療報酬改定もみながら、計画していきたいと思っています。

医療機関	精神障害者に対する心理学からの新しいアプローチ法について研究してほしい。
医療機関	<p>当院だけかもしれないが、心理の世界は横のつながりが強いと感じます。</p> <p>当院の心理士は、皆、心理士からの紹介です。</p>
医療機関	<p>当院では臨床心理士を採用しているため、学士のみでは対象外となっております。</p> <p>PSWの資格が取得可能であれば採用の機会があるかと思えます。</p>
医療機関	問7は1~2名で採用を考えております。
医療機関	離島では慢性的に心理系の職が不足しているため、貴学で人材を育てて頂きたいと思えます。
矯正施設	矯正施設において受刑者の矯正教育は重要視されており、専門知識を要する心理関係に精通する職員は必要不可欠なため、教育機関における部門の拡大は当所他、関係機関にとって有益であるものと思えます。
矯正施設	矯正施設を希望する方は、児童、幼児教育学科と心理、文化学科の両方から必要な学びができると有益だと考えます。
矯正施設	<p>心理学を専攻した場合、心理技官としての採用のほか、一般採用においても職務における理解が進みやすいものと思われ、一定のニーズはあるものと考えます。</p> <p>試験による採用となりますので、具体的な採用人数等はお示し出来ませんが、今後とも矯正行政にご理解を賜り、学生の受験を是非奨励していただきますようよろしくお願いいたします。</p>
矯正施設	臨床心理士等の資格があれば矯正施設でのニーズは高いと思われる
児童養護施設	・大学のことをよく知らない・いい人材を育成していただきたい
児童養護施設	貴大学の文学部心理学科卒業の方が心理職として従事いただいております。(平成19年4月より)
児童養護施設	虐待を受けて様々なトラウマを抱えて入所してくる児童や、愛着障害、発達障害等を抱える子ども達の心に寄り添い支援していくスキルを持った人材育成、養成を期待しております。
児童養護施設	現在、心理担当が不在のため貴校に限らず人材確保に努めている
児童養護施設	現在の児童養護施設は入所児童のケアをするだけでなく、里親のスカウト、育成等フォスタリングのような業務と、より地域に根ざした子どもや家庭、学校への支援も重要な業務になってきます。今後ますます心理士が活躍されることが考えられます。できるならば、社会的養護にも関心が持てるようなカリキュラムで教育がされればと思います。
児童養護施設	現在保育士(ケアワーカー)が不足しているため、教員免許のあるケアワーカーとしてなら是非複数名でもお願いしたい
児童養護施設	<p>広い基礎知識の上に高い専門性のある方を望みたい。</p> <p>当方、児童養護施設につき、様々な子ども達がいる。そのため、幅広く対応できる方を望みたい。</p>
児童養護施設	子どもたちの養育には心理担当職員と養育支援担当職員や看護師などの専門職との密な連携による支援が必要であり、生活場面での支援を積極的に行い心理療法室だけでは把握できない課題の明確化に取り組む心理職員を期待します。

児童養護施設	施設は地域の社会的養護の中核拠点として活動していくことが期待されています。そうした観点から多くの機能を果たし、多くの支援の資源を地域に提供することができるように人員配置を行っていかねばなりません。貴学の人間科学部が養成される人材は今後社会にとって重要な役割を担うと思われま
児童養護施設	児童虐待に関わる相談対応件数は依然として増加傾向にあります。その中で児童相談所や市町村、医療、福祉施設等の現場では心理に関する専門的な知識および技術を有する人材が必要です。 今後子どもとその家庭の最善の利益実現に向け、子育て世代包括支援センター、子ども総合支援拠点、児童家庭支援センター等、子ども家庭行政支援、教育支援においても心理職養成は社会的養育の上で重要なことだと思います。 新学科設置に期待いたします。
児童養護施設	児童養護施設で心理職が勤務する場合、施設によって働き方が違うと思います。 学生さんがどのような形の就労を望むかで関わり方がかわります。
児童養護施設	児童養護施設には不適切な関わりを受けた子どもは約7割を超え、そのなかにはトラウマに苦しむ子ども達が多く見受けられ、また発達に障害のある子どもも急増している。 それらの子ども達に対し、児童養護施設では何気ない生活が日々の営みの中に絶え間なく行われ、温かく潤いに満ちた日常生活の積み重ねと安定した継続を通していくことが大切である。 また、心的外傷等により心理的ケアが必要な場合には、医療機関での治療のほか、生活の中でできるカウンセリングや様々な療法を施設内で心理士が実施し、さらには支援スタッフとの会議で子どもの行動や特性の意味を助言し、望ましい関わり方を一緒に考えていくことは非常に効果的であると考えられる。
児童養護施設	児童養護施設の国の設置基準で定数は1名であり、複数名の採用もしたいが厳しい状況である。
児童養護施設	児童養護施設は高機能化、多機能化が求められています。 今後現在よりも心理的なケアを必要とするこどもの入所が増加すると思われま
児童養護施設	児童養護施設も入所数に関係なく、地域も含め複数名配置できるようになりましたので、人材の必要性はかなりあると思
児童養護施設	児童養護施設現場は人材確保が大きな課題となっています。また、虐待を受け入所する児童が多く、様々な生活場面で虐待の影響が現れ、人間関係のトラブルが多く発生しています。 学部で心理学を学んだスタッフを雇用できると現場としてはありがたいです。
児童養護施設	心理専門職は、施設に1名、児童家庭支援センターに2名いますが、現在は募集していません。欠員が生じたときに募集することにして
児童養護施設	心理療法担当職員を加算職員で配置しているが、虐待も含め様々な理由で親子分離して施設に入所している子どもたちの養育には適切な心理的ケアが求められるため

児童養護施設	<p>専任の心理スタッフの採用はしていませんが、こどもの支援においては、心理の知識と技能、実践力のある人材を必要としています。ただ、1施設に多くの心理に精通するスタッフの採用は難しく、経験を積み上げる上でもスーパーバイズのできる存在が不足していると感じています。</p> <p>卒業後、社会に出て活躍する生徒さんたちに大学の先生方が卒業後もスーパーバイズを求められるようなシステムを構築していただけると嬉しいです。</p>
児童養護施設	<p>専門教育の充実を期待しております。さらに、人間性も問われる社会なので全人教育の充実も期待しております。</p>
児童養護施設	<p>専門的知識を活かせる実践力(リベラルアーツ的教養も含め)を修得できるようなプログラムを開設あるいは特講(実習)など、短期で取れるようにしたらどうでしょうか？良い経験知を身に付けて、現場で前向きに逞しく協働できる力を発揮してほしいと願っております。</p>
児童養護施設	<p>保育士の人材が不足しています。児童養護施設は年々児童のかかえる背景が複雑になっています。大学等で心理学を勉強している保育士さんが就職していただければ助かります。求人には大変苦勞をしていますので設置学部を期待いたします。</p>
児童養護施設	<p>問6、7に関しては心理職としてではなく、児童指導員として子どもに関わる人材を確保していきたい。</p>

3. 集計結果のポイント

① 企業・団体を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

※家政学部「生活デザイン学科（仮称）」、人間科学部「児童・幼児教育学科（仮称）」については記載省略。

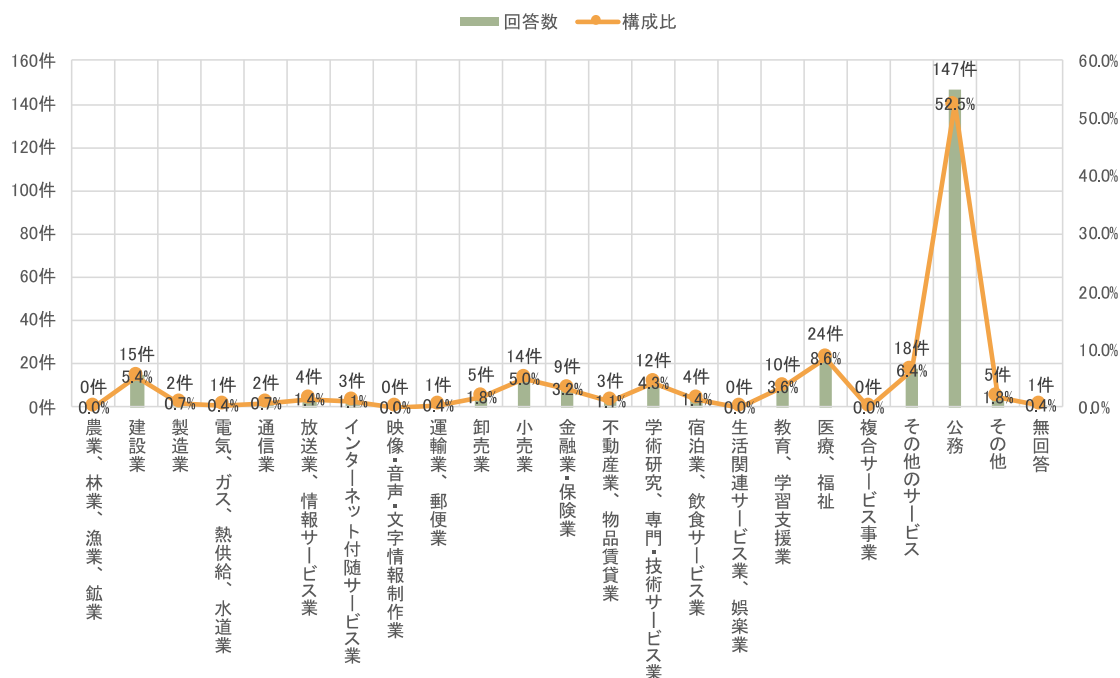
① 回答企業・機関の基本情報

アンケート回答企業・団体の約半数 147 件（全体の 52.5%）が「公務」、次いで 24 件（8.6%）が「医療福祉」、以上 2 業種や「その他」を含めて合計 18 の幅広い業種から回答が得られた。〈グラフ 1〉

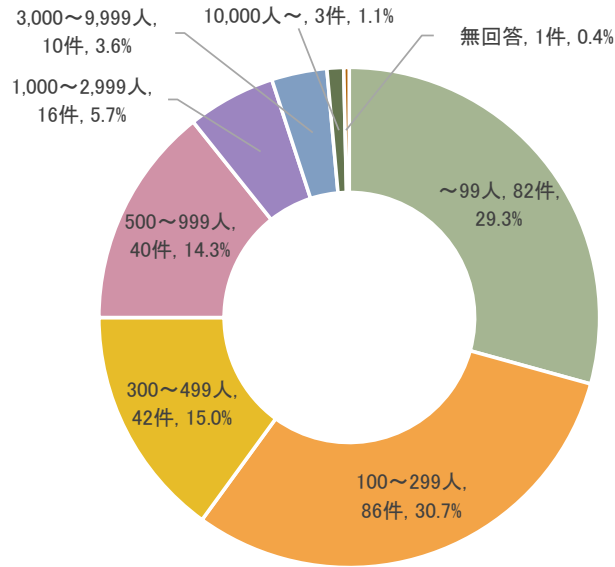
従業員・職員数で一番多かった回答は「100～299 人」で、86 件（30.7%）であった。次いで、「～99 人」が 82 件（29.3%）であった。〈グラフ 2〉

また、アンケート回答企業・機関の 51.4%にあたる 144 件が、九州女子大学がある「福岡県」に所在しており、福岡県を除く九州地方が計 103 件（36.8%）、「沖縄県」が 20 件（7.1%）、「その他」が 13 件（4.6%）であった。〈グラフ 3〉

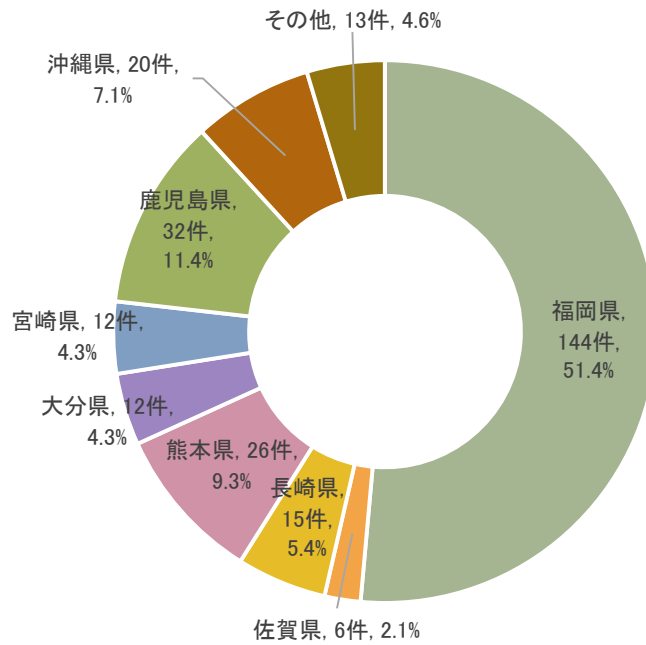
グラフ1



グラフ2



グラフ3

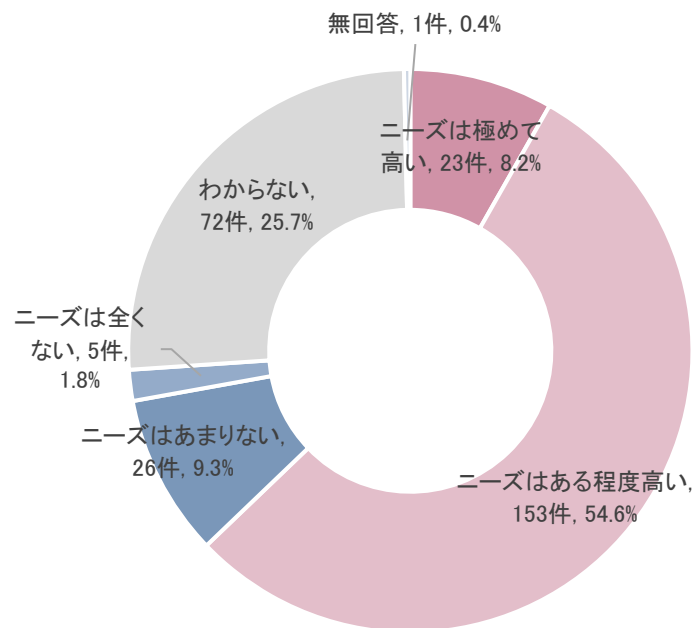


② 人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について

人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材の社会的なニーズを質問したところ、「ニーズは極めて高い」が23件(8.2%)、「ニーズはある程度高い」が153件(54.6%)であった。回答企業・機関の6割以上にあたる176件が、人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。〈グラフ4〉

人間科学部「心理・文化学科(仮称)」養成する人材の採用意向について質問したところ、「採用したい」が35件(12.5%)であった。さらに、その35件に対し採用可能と思われる人数について質問したところ、合計44人であった。〈グラフ5・表1〉

グラフ4



グラフ5

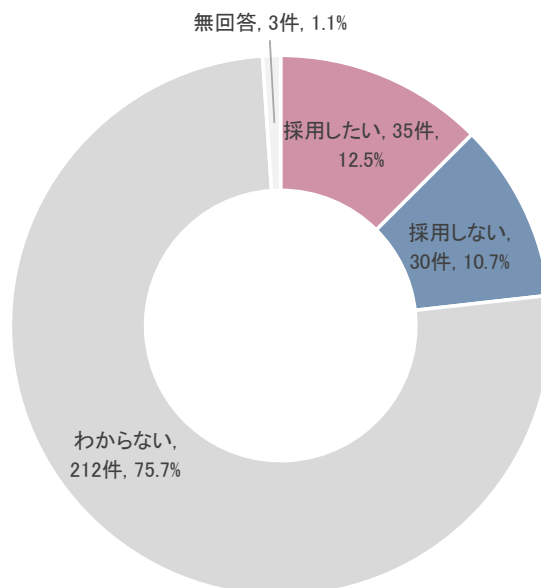


表1

選択項目	回答件数	採用可能人数
1名	28件	28人
2名	2件	4人
3名	2件	6人
4名	0件	0人
5名	0件	0人
6名以上	1件	6人
無回答	2件	0人
合計	35件	44人

※採用可能人数は、回答件数に人数を乗じたもの

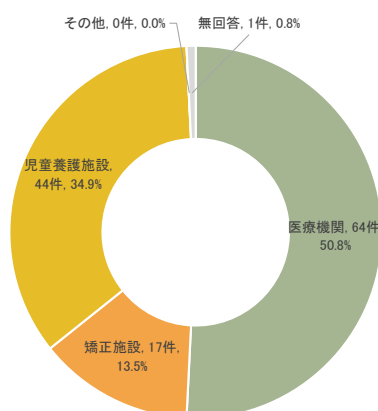
② 医療機関・福祉施設・矯正施設を対象とした人材需要アンケート調査

※構成比はいずれも少数第二位を四捨五入した。したがって合計は必ずしも 100.0%とは一致しない。

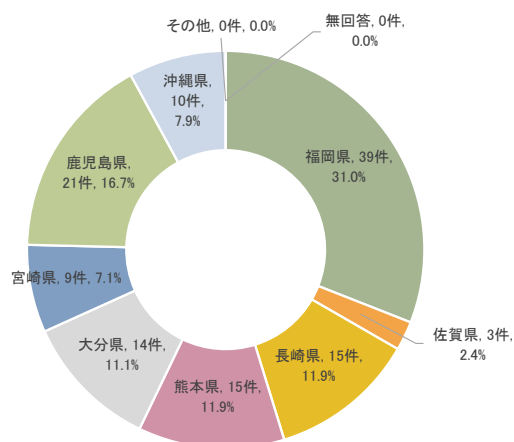
① 回答企業・機関の基本情報

アンケート回答機関・施設の 50.8%にあたる 64 件が「医療機関」で一番多い回答であった。次いで、「児童養護施設」が 44 件（34.9%）、「矯正施設」が 17 件（13.5%）の順であった。＜グラフ 6＞また、アンケート回答機関・施設の 31.0%にあたる 39 件が、九州女子大学がある「福岡県」に所在しており、福岡県を除く九州地方が計 77 件（61.1%）、「沖縄県」が 10 件（7.9%）であった。＜グラフ 7＞

グラフ6



グラフ7



② 心理専門職者または大学の心理系学科出身者の勤務状況

アンケート回答機関・施設における心理専門職者または大学の心理系学科出身者の勤務状況は、表2の通りである。心理専門職者（専任・非常勤・派遣を含む）が勤務していると回答したのは、合計86件（68.2%）であり、大学の心理系学科出身者が勤務していると回答したのは、合計24件（19.1%）あった。

表2

選択内容	回答件数	構成比
専任の心理専門職者が勤務している	72件	57.1%
非常勤または派遣の心理専門職者が勤務している	14件	11.1%
大学の心理系学部出身者がおり、専門知識をいかした業務に従事している	18件	14.3%
大学の心理系学部出身者がおり、心理関連以外の業務に従事している	6件	4.8%
上記にあてはまる人材はいない	16件	12.7%
わからない	0件	0.0%
無回答	0件	0.0%

③ 心理専門職者または大学の心理系学科出身者の今後の採用の見通し

アンケート回答機関・施設における心理専門職者または大学の心理系学部出身者の今後の採用の見通しについて質問したところ、表3の通りである。「不足しており、採用数を増やしたい」の回答が33件（26.2%）、「適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい」の回答が53件（42.1%）であった。上記結果より今後も心理専門職者または大学の心理系学部出身者の採用活動を行う機関・施設は68.3%にあたる86件であった。

表3

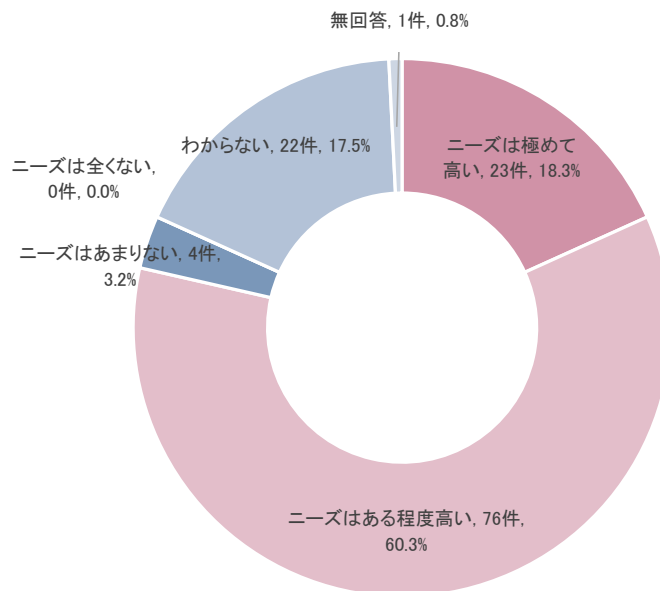
選択内容	回答件数	構成比
不足しており、採用数を増やしたい	33件	26.2%
適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい	53件	42.1%
過剰であり、採用数を減らしたい	0件	0.0%
採用にあたって、学部・学科は不問としている	9件	7.1%
わからない	31件	24.6%
無回答	0件	0.0%

④ 人間科学部「心理・文化学科（仮称）」の社会的ニーズについて

人間科学部「心理・文化学科（仮称）」が養成する人材の社会的なニーズを質問したところ、「ニーズは極めて高い」が23件（18.3%）、「ニーズはある程度高い」が76件（60.3%）であった。

回答機関・施設の78.6%にあたる99件が、人間科学部「心理・文化学科（仮称）」が養成する人材の社会的ニーズの高さを認める結果となった。〈グラフ8〉

グラフ8



⑤ 人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材の採用意向について

人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材の採用意向について質問したところ、「採用したい」が40件(31.7%)であった。さらにその40件に対し、採用可能と思われる人数について質問したところ、合計69人であった。〈グラフ9・表4〉

グラフ9

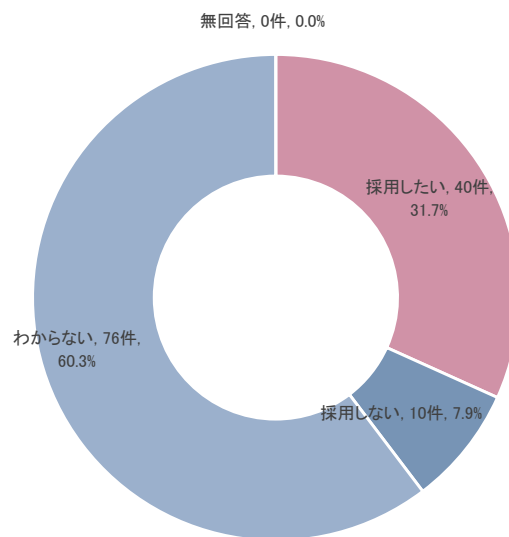


表4

選択項目	回答件数	採用可能人数
1名	21件	21人
2名	12件	24人
3名	1件	3人
4名	1件	4人
5名	1件	5人
6名以上	2件	12人
無回答	2件	0人
合計	40件	69人

※採用可能人数は、回答件数に人数を乗じたもの

人材需要の見通し調査結果 まとめ

九州女子大学が令和5（2023）年度に設置予定の人間科学部「心理・文化学科（仮称）」の人材需要の見通しを測るため、当該学科の卒業生の採用が見込まれる①企業・団体 ②医療機関・福祉施設・矯正施設等を対象にアンケート調査を依頼し、合計406箇所（①280箇所 ②126箇所）から回答を得た。

当該学科の概要を示した上で採用意向、さらに採用意向を示した場合は採用可能と思われる人数について質問したところ、「採用したい」と回答したのは、2つのアンケート調査合計で75箇所となり、その上で提示された採用可能人数の合計は113人であった。人間科学部「心理・文化学科（仮称）」は、入学定員を90名と予定しており、その採用ニーズは入学定員を上回った。

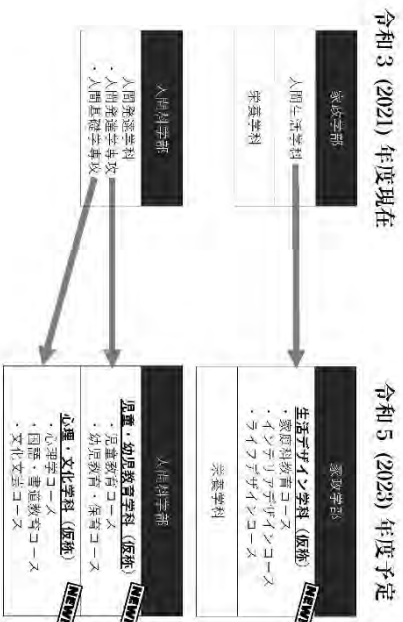
以上の結果から、九州女子大学人間科学部「心理・文化学科（仮称）」が養成する人材については入学定員を上回る人材需要が見込まれることが明らかとなった。

以上

添 付 資 料

- 資料 1 九州女子大学 令和 5 年度新設 3 学科概要
- 資料 2 設置構想についての人材需要アンケート調査用紙①
(企業・団体が対象)
- 資料 3 設置構想についての人材需要アンケート調査用紙②
(医療機関・福祉施設・矯正施設が対象)

令和5(2023)年4月、 九州女子大学 が生まれ変わります。



この「概要」をご覧の上、
別紙・人材需要アンケート調査にご回答ください。

上記は設置構想中のため、学部・学科名称、定員、取得できる免許・資格、内容などは変更となる場合があります。

令和5(2023)年4月、九州女子大学に新たに開設予定の学科

家政学部

生活デザイン学科

【資格・講習中】
言語講習中

入学定員60人(収容定員20人)／修業年限:4年／学位:学士(家政学)

養成する人材

生活者の視点で家庭や学校、地域社会の課題を解決する力を養い、学校教育および社会の各業界等で活躍できる人材を育成します。

学科の特色

- 専門教育科目による学内外での活動を通して、**社会で通用する豊かなコミュニケーション能力**を養います。
- **衣食住や生活経済学**、大学で学ぶ知識や技術を活かすことができる**地域活動**を行います。
- 将来の進路に応じた**資格取得**を、専門知識の豊富な教員による丁寧なサポートを通して目指します。
- さらに3年次以降は目的に応じた3つのコースに分かれ、専門性を高めることができます。

家庭科教育コース	インテリアデザインコース	ライフデザインコース
1年次には専攻科生活福祉総合学科の2年次と併修して、高専校での教育を受ける。2年次からは、専攻科生活福祉総合学科の3年次と併修して、高専校での教育を受ける。3年次からは、専攻科生活福祉総合学科の4年次と併修して、高専校での教育を受ける。4年次からは、専攻科生活福祉総合学科の5年次と併修して、高専校での教育を受ける。	インテリアデザインに関する知識や技術を身につけ、インテリアデザイナーとして活躍できる人材を育成します。	生活者の視点で、生活環境の改善やデザインに関する知識や技術を身につけ、インテリアデザイナーとして活躍できる人材を育成します。

想定される進路

- 教育現場で求められる**実践力**を身につけた**家庭科教員** (1年次は専攻科生活福祉総合学科、2年次は専攻科生活福祉総合学科)
- **女性目線を活かした住の専門家**(インテリアデザイナー)
- 専攻科生活福祉総合学科、高専校での教育を受ける。
- 暮らしや子育てに関する**アドバイザー**になる(2)
- 地域経済の活性化やよりよい人生の実現に寄与する仕事 (専攻科生活福祉総合学科、高専校での教育を受ける)
- 豊かさを提供できる**企業や時代のニーズ**に応えた**ファッション**の提案ができる**企業** (専攻科生活福祉総合学科、高専校での教育を受ける)

人間科学部

児童・幼児教育学科

【資格・講習中】
言語講習中

入学定員100人(収容定員40人)／修業年限:4年／学位:学士(教育学)

養成する人材

子どもの教育および発達支援の諸問題に関する専門的知識と技術の教授を通じて地域社会に貢献できる**専門職業人材**を育成します。

学科の特色

- 少人数制による**個別支援教育**、**総合教養教育**、**教育実習**、**教育の専門教育**を通して質の高い学に力と、多様化・複雑化する現代社会をリードできる力を身につけます。
- **児童・幼児教育**、**保育**、**特別支援教育**に関する**専門的知識**、**地域におけるフィールドワーク**、**アクティブラーニング**を通して時代のニーズに応じた**教育・保育の力を活かす**、**地域**の発展に貢献できる**実践力**を身につけます。
- **小学校教育**、**特別支援学校教育**、**幼稚園教育**、**保育士**を組み合わせることで取得することによって得意分野をもった**専門性の高い**人材の育成を、少人数制の徹底がポイントを通して行っています。
- さらに3年次以降は目的に応じた3つのコースに分かれ、専門性を高めることができます。

児童教育コース	幼児教育・保育コース
幼稚園の専攻科保育士養成科と併修して、3年次からは、専攻科保育士養成科の4年次と併修して、専攻科保育士養成科での教育を受ける。	幼稚園の専攻科保育士養成科と併修して、3年次からは、専攻科保育士養成科の4年次と併修して、専攻科保育士養成科での教育を受ける。

想定される進路

- **教員職** (1年次は専攻科児童・幼児教育学科、2年次は専攻科児童・幼児教育学科)
- **保育**、**幼稚園** (1年次は専攻科保育士養成科、2年次は専攻科保育士養成科)
- **行政職**や**公共団体**にて**地域サービス**や**まちづくり**に貢献
- **保育**、**幼稚園**、**特別支援教育**、**幼児教育**、**保育士**になる(2)
- **地域社会の発展**に向けた**企業** (専攻科保育士養成科、高専校での教育を受ける)
- **研究**、**調査**などによる**地域貢献**や**学園**としての**知見**を深めるため**大学院**に進学

心理学部

心理・文化学科

【資格・講習中】
言語講習中

入学定員90人(収容定員30人)／修業年限:4年／学位:学士(文学)

養成する人材

現代社会の課題に対応する**ヒューマンケア**、**教育**、**文化**の新たな**共同創**造と**発信**を通じて**社会に貢献**できる幅広い**職業人材**を育成します。

学科の特色

- 現代を取り巻く**人的環境**・**特性**を理解し、**人を支え、社会を変える専門的**能力の獲得 (今年度から文学部、2年次は専攻科心理・文化学科と併修して、専攻科心理・文化学科での教育を受ける)
- **ヒューマンケア**、**教育**、**企業**、**組織**に**従事**する者に**必要**な**実践的応用力**の獲得 (専攻科心理・文化学科の2年次と併修して、専攻科心理・文化学科での教育を受ける)
- **少人数制**の徹底サポートによる**複数の免許・資格**を合わせつつ**人材の育成** (公認心理師養成科(専攻科心理・文化学科)、認定心理士養成科(専攻科心理・文化学科)、認定教員養成科(専攻科心理・文化学科)、認定保育士養成科(専攻科心理・文化学科))
- **3つのコース**と**女性**育成機

心理学コース	言語・書道教育コース	文化文芸コース
心理学的なアプローチで、人間の心や行動を研究し、その応用を図る。心理学者として活躍できる人材を育成します。	言語学や書道に関する知識や技術を身につけ、言語学や書道の専門家として活躍できる人材を育成します。	文学や芸術に関する知識や技術を身につけ、文学や芸術の専門家として活躍できる人材を育成します。

想定される進路

- **人材援助職** (1年次は専攻科心理・文化学科、2年次は専攻科心理・文化学科)
- **教育職** (1年次は専攻科心理・文化学科、2年次は専攻科心理・文化学科)
- **公務員**や**一般企業** (1年次は専攻科心理・文化学科、2年次は専攻科心理・文化学科)
- **人間の心理と文化**に関する学問を深め、**グローバルイシュー**を**目指して大学院**に進学

資料2 設置構想についての人材需要アンケート調査用紙①(企業・団体が対象)



九州女子大学

家政学部「生活デザイン学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称・設置構想中)」
人間科学部「心理・文化学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての人材需要アンケート調査
(対象：人事採用担当者様)

九州女子大学は令和5(2023)年度に学部学科の改組を行い、家政学部に「生活デザイン学科(仮称)」、人間科学部に「児童・幼児教育学科(仮称)」「心理・文化学科(仮称)」の設置を構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生の採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実に努めていきたいと考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は九州女子大学の新学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、謹んでお願い申し上げます。
※このアンケート調査は九州女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

正しい回答 誤った回答
【記入例】

- ・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
- ・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問1 貴社・貴機関の主要種として、最もあてはまるものをお答えください。(最もあてはまるもの1つにマーク)

- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="radio"/> 農業、林業、漁業、鉱業 | <input type="radio"/> 建設業 | <input type="radio"/> 製造業 |
| <input type="radio"/> 電気、ガス、熱供給、水道業 | <input type="radio"/> 通信業 | <input type="radio"/> 放送業、情報サービス業 |
| <input type="radio"/> インターネット付随サービス業 | <input type="radio"/> 映像・音声・文字情報制作業 | <input type="radio"/> 運輸業、郵便業 |
| <input type="radio"/> 卸売業 | <input type="radio"/> 小売業 | <input type="radio"/> 金融業・保険業 |
| <input type="radio"/> 不動産業、物品賃貸業 | <input type="radio"/> 学術研究、専門・技術サービス業 | <input type="radio"/> 宿泊業、飲食サービス業 |
| <input type="radio"/> 生活関連サービス業、娯楽業 | <input type="radio"/> 教育、学習支援業 | <input type="radio"/> 医療、福祉 |
| <input type="radio"/> 複合サービス事業 | <input type="radio"/> その他のサービス | <input type="radio"/> 公務 |
| <input type="radio"/> その他 | | |

問2 貴社・貴機関の従業員・職員数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- | | | | | |
|------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|------------------------------------|
| <input type="radio"/> ~99人 | <input type="radio"/> 100~299人 | <input type="radio"/> 300~499人 | <input type="radio"/> 500~999人 | <input type="radio"/> 1,000~2,999人 |
| <input type="radio"/> 3,000~9,999人 | <input type="radio"/> 10,000人~ | | | |

問3 貴社の本社、貴機関の主たる事業所の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- | | | |
|----------------------------|---------------------------|--|
| <input type="radio"/> 福岡県 | <input type="radio"/> 佐賀県 | <input type="radio"/> 長崎県 |
| <input type="radio"/> 熊本県 | <input type="radio"/> 大分県 | <input type="radio"/> 宮崎県 |
| <input type="radio"/> 鹿児島県 | <input type="radio"/> 沖縄県 | <input type="radio"/> その他 <input type="text"/> |



1

本アンケート調査用紙に印刷されているQRコードは集計時に使用するものです。個人の特定を目的とするものではありません。



問4以降は別紙「九州女子大学 令和5年度設置予定の新学科概要」をご覧ください、お答えください。

<家政学部「生活デザイン学科(仮称)」について>

問4 九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問5 九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問6 <問5で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の家政学部「生活デザイン学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上(ご支障なければ人数をご記入ください)

<人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」について>

問7 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問8 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われませんか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問9 <問8で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「児童・幼児教育学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上(ご支障なければ人数をご記入ください)

<人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について>





問10 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問11 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材を、貴社・貴機関において採用したいと思われますか。(あてはまるもの1つにマーク)

- 採用したい 採用しない わからない

問12 <問11で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上(ご支障なければ人数をご記入ください)

問13 九州女子大学が設置構想中の新学部・学科について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。特定学部・学科についてコメントいただく場合、お手数ですが最初に「〇〇学部について」「〇〇学科について」とご記入いただければ幸いです。

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。



資料3 設置構想についての人材需要アンケート調査②(医療機関・福祉施設・矯正施設が対象)



九州女子大学

人間科学部「心理・文化学科(仮称・設置構想中)」

設置構想についての人材需要アンケート調査
(対象：人事採用担当者様)

九州女子大学は令和5(2023)年度に学部学科の改組を行い、人間科学部に「心理・文化学科(仮称)」の設置を構想中です。本学ではこのアンケート調査を通して、将来的に卒業生を採用をご検討いただく皆様からさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたいと考えています。回答いただいた皆様から得られた情報は九州女子大学の新学科設置構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を謹んでお願い申し上げます。
※このアンケート調査は九州女子大学から委託された第三者機関(株式会社高等教育総合研究所)が実施しています。

【記入例】  

- ・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
- ・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問1 貴機関・貴施設の種類としてあてはまるものをお答えください。(最もあてはまるもの1つにマーク)

医療機関 矯正施設 児童養護施設 その他

問2 貴機関・貴施設の所在地をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島県
 沖縄県 その他

問3 貴機関・貴施設における心理専門職者または大学の心理系学部出身者の勤務状況をお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 専任の心理専門職者が勤務している
- 非常勤または派遣の心理専門職者が勤務している
- 大学の心理系学部出身者がおり、専門知識をいかした業務に従事している
- 大学の心理系学部出身者がおり、心理関連以外の業務に従事している
- 上記にあてはまる人材はいない
- わからない

問4 貴機関・貴施設における心理専門職者または大学の心理系学部出身者の今後の採用見通しについてお答えください。(あてはまるもの1つにマーク)

- 不足しており、採用数を増やしたい 適度に充足しており、現行並みの採用数を維持したい
- 過剰であり、採用数を減らしたい 採用にあたって、学部・学科は不問としている わからない





問5以降は「九州女子大学 令和5年度設置予定の新学科概要」にて「心理・文化学科(仮称)」をご覧ください、お答えください。

問5 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材（特に心理学を学んだ人材）は、今後の社会においてニーズが高いと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- ニーズは極めて高い ニーズはある程度高い ニーズはあまりない ニーズは全くない
 わからない

問6 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材（特に心理学を学んだ人材）を、貴機関・貴施設において採用したいと思われますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 採用したい 採用しない わからない

問7 <問6で「採用したい」とされた場合、お答えください> 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」が養成する人材（特に心理学を学んだ人材）について、よろしければ採用可能な人数をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 1名 2名 3名 4名 5名
 6名以上（ご支障なければ人数をご記入ください）

問8 九州女子大学が設置構想中の人間科学部「心理・文化学科(仮称)」について期待される点、ご要望等がありましたら、ご自由にご記入ください。

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

